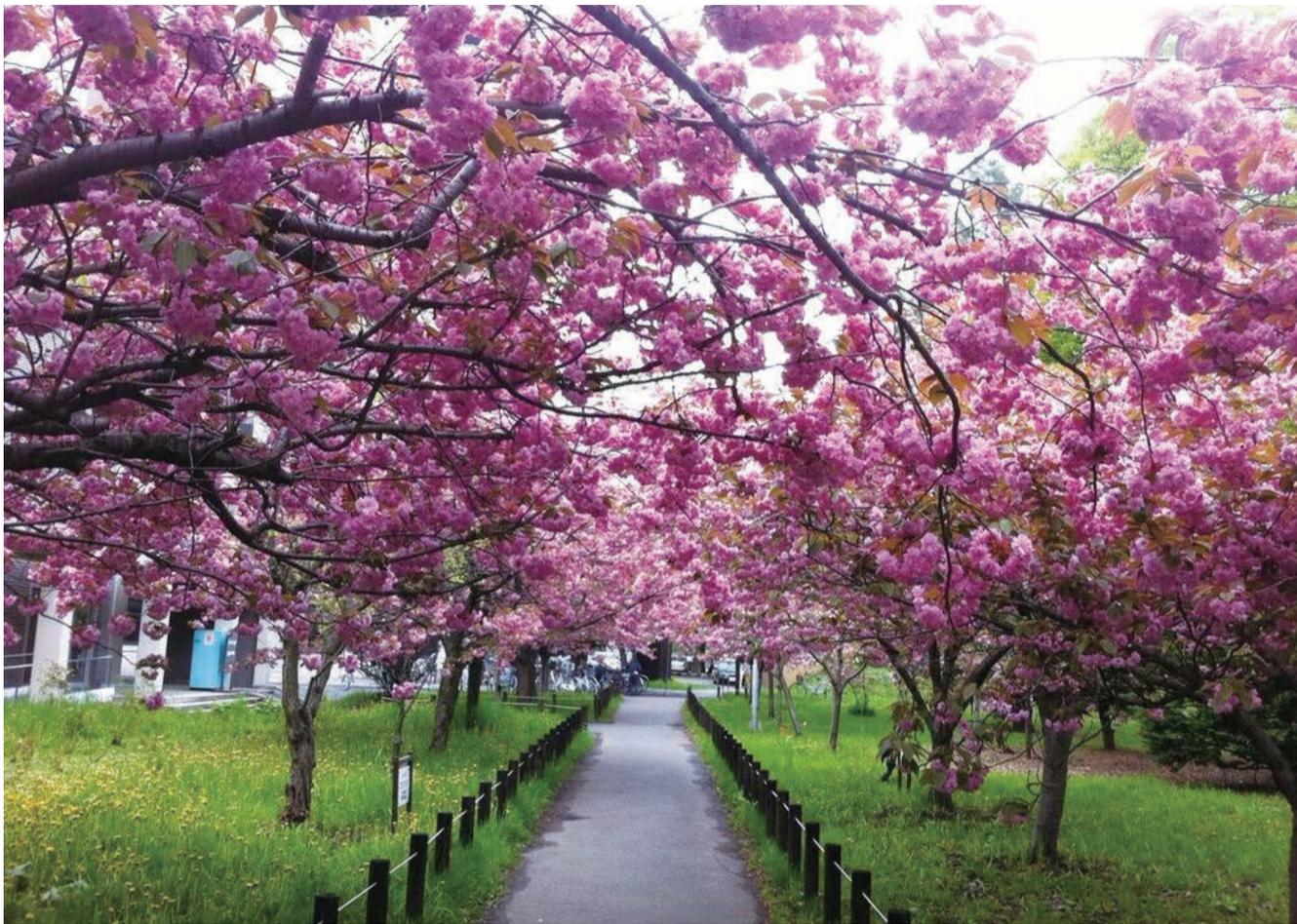


発行所

札幌市北区北15条西7丁目
北大医学部同窓会
TEL&FAX (011) 706-5007
E-mail: furate@med.hokudai.ac.jp
http://www.med.hokudai.ac.jp/~alum-w/

編集人 田中 伸哉
発行人 浅香 正博

北大医学部同窓会新聞



「八重桜のトンネル」

石黒 信久(60期)

CONTENTS

- (1) 医学研究院長・医学部長就任のご挨拶……………吉岡 充弘
北海道大学理事・副学長就任にあたって……………笠原 正典
- (2) 平成28年度総会報告及び新入会員歓迎会報告
平成28年度総会資料
- (3) 新入会員を歓迎して……………浅香 正博
新入会員ご挨拶……………鎌田千奈美
第93期生名簿
平成28年度同窓会会長賞報告
- (4) 新入生ご挨拶……………朝陽 侗那
平成29年4月1年次入学者名簿
2年次進級者名簿・2年次学士編入学者名簿
教授退任ご挨拶……………櫻木 範明
- (5) 教授退任ご挨拶……………福田 論 水上 尚典 玉木 長良
春の褒章、叙勲……………大北 健雄
フラテ祭2017 9月開催
- (6) 平成28年度 医学研究科・医学部医学科各賞受賞者
田邊 達三 瀬美 達也 角家 健 鈴木 雅
- (7) 平成28年度 医学研究科・医学部医学科各賞受賞者
和田 進 内ヶ島基政 北井 秀典 神田 真聡
- (8) 2017年北海道大学医学部、北海道大病院、
北海道大学医学部同窓会合同新年会
および北海道大学医学部創立100周年記念
事業後援会設立総会の開催について
田中 伸哉 平野 聡 坂本 直哉
- (9) 北海道大学医学部創立100周年記念事業への
ご協力をお願い
展示資料に関する情報ご提供をお願い
- (10) 大学院組織再編のお知らせ
平成28年度フラテ研究奨励賞報告……………秋田 弘俊
受賞の喜び……………藤原 圭志 山田 大翔
平成29年度 フラテ研究奨励賞受賞候補者の募集
- (11) 北海道大学・環境健康科学研究教育センター
が世界保健機関研究協力センター
(WHO Collaborating Centre) に
指定されました(活動紹介)……………岸 玲子
「Cutting edge of global health」
世界保健機関のインターンの経験を通して……………寺田悠里子
- (12) 理事会・評議員会報告・告知板
- (13) 告知板・事務局からお知らせ・新刊書紹介
- (14) 新刊書紹介・職員交代のご挨拶
北海道医学会からお知らせ
同窓会費の納入は口座振替で
同窓会費納入のお願い
平成29年度同窓会誌
「写真・絵画等」「文芸」原稿募集について
ご逝去者・一面の写真説明・編集後記

医学研究院長・ 医学部長就任のご挨拶



よし おか みつ ひろ
吉岡 充弘(60期)

平成29年4月より北海道大学大学院医学研究科は、変化の著しい社会のニーズに応える人材を機動的に輩出するため、これまで教育組織と研究組織が一体であった「研究科」を大学院生が所属する「学院」と教員が所属する「研究院」に分離し、異分野を有機的に融合したグローバルな大学院教育の展開を可能にしました。すなわち、学院での教育は複数の研究院および附属研究所等の教員が担当できるようになり、研究領域に縛られることなく教育資源の再配分を可能にしました。この新システムの導入により、社会が要請する新たな教育を実施する場合、教員組織再編を伴わずに迅速に教育組織を設置することが可能になりました。そしてこの改組により、初代医学研究院長の任を引き受けることとなりました吉岡充弘です。昭和59年に本学を卒業後、直ちに薬理学第一講座(齋藤秀哉名誉教授35期)の門を叩き、学位取得後の米国留学の1年間を除き、卒業後今日までの33年間、本学で研究・教育・運営に携わってきました。諸先輩のご高配により、副研究科長や総長補佐を経験させていただきました。今後も「医学研究院」に所属する教員とともに一丸

となって、医学院の大学院生ならびに医学部医学科の学生を教育していく所存です。また、一部の教員は新たに設置される医理工学院、および国際感染症学院に所属する大学院生を指導いたします。この学院化に伴い、医学院の理念として、「世界をリードする先進的医学研究の推進、高い倫理観と豊かな人間性を有する医学研究者・医療人の育成による人類の健康と福祉への貢献」を掲げ、医学・生命科学・社会医学(公衆衛生学)に関する高い倫理観及び高度な専門的知識と研究及び教育・実践能力を備えた人材の養成を教育目標としています。

また、北大医学部は2年後に100周年を迎えます。サステナブルな発展が可能な研究・教育環境を実現すべく、研究教育基金の創設によりその土台づくりに努める所存です。大学を取り巻く環境が激変するなか、教育、研究、診療の将来について積極的に議論し、さらなる発展に取り組んでいきたいと考えております。同窓会会員各位にはご指導とご鞭撻をお願い申し上げます。

北海道大学理事・ 副学長就任にあたって



かさ はら まさ のり
笠原 正典(56期)

このたび、4月1日付で北海道大学理事・副学長に就任しました。名和豊春総長から理事就任の依頼をいただいた際には躊躇しましたが、母校である北海道大学のために少しでも力になることができればと考え、非力を顧みずお引き受けした次第です。担当は、総括、国際全般、教員人事制度、教育研究組織、国際連携研究教育局関連統括、情報公開、内部統制、リスク管理、同窓会、全学運用教員、海外オフィス、男女共同参画です。縦割りを避け、部署間の風通しを良くすると総長の意向により、理事・副学長の人数が5名から3名に減ったため、担当職務が広範囲に及んでいます。

北海道大学が対処すべき課題は多岐にわたっていますが、特に重要なのは、教育・研究の充実を図り、研究大学としての国際的地位を高めることだと思います。本学が果たすべき使命の一つとして、名和総長は「世界トップ100を目指す研究・教育拠点の構築」を掲げておりますが、この目標の実現に向けて全力で取り組む所存です。本年4月には、国立大学法人法の一部改正され、一定の要件を満たし、世界最高水準の教育研究活動の展開が見込まれる大学を指定国立大学法人とし、研究成果の活用、人材確保、法人資産の

活用などの点で規制緩和が行われることになりました。本学は、「研究力」に関しては要件を満たしてはいましたが、「社会との連携」、「国際協同」の両要件を満たしておらず、今回は申請に至りませんでした。今後は、これらの要件を満たし、次回公募の際には必ず申請できるように準備する必要があると考えております。

北海道大学は約4,000名の教職員、12,000名の学部学生、6,000名の大学院生を擁する基幹総合大学です。本学の強みを活かし、得意分野を伸ばすとともに、各学部・研究院・研究科で行われている教育・研究の多様性を尊重しなければなりません。また、最近ともすれば冷遇されがちな、すぐには成果の出ない基礎研究を大切にしなければなりません。これからの2年間、名和総長の下で本学がバランスのとれた形で発展できるよう、微力を尽くしたいと思っておりますので、同窓の皆様にはご指導、ご鞭撻のほどお願い申し上げます。

最後に、本学がさらなる発展を遂げ、その国際的存在感を高めていく上で医学部と病院への期待はきわめて大きいといえます。医学部並びに病院のさらなる発展と同窓の皆様のご健勝を祈念申し上げます。就任の挨拶といたします。

平成28年度総会報告及び新入会員歓迎会報告

■平成28年度総会報告

平成28年度総会が、2月13日(月)午後6時より札幌パークホテル「高砂」で開催されました。

会議に先立ち、昨年の総会以降にご逝去された78名の会員のご冥福を祈り、黙とうが捧げられました。

総会は評議員会議長の福田諭先生(52期)と副議長の小谷晃司先生(65期)の進行により行われ、最初に浅香正博同窓会長(48期)の挨拶があり、続いて議事録署名人として石田雄介先生(75期)及び藤原圭志先生(78期)が指名されました。

協議事項では、1.会則の一部改正として浅香会長から、改正の趣旨及び改正内容について説明の後、審議了承されました。なお、今回の改正は現行会則の字句及び文言を統一し、規定の整備を図るものであります。2.平成27年度会計収支決算として武田宏司会計理事(56期)から、収支決算状況について説明の後、審議了承されました。3.平成27年度会計監査として橋野聡監事(58期)から、会計処理は適切かつ正確に行われている旨説明の後、審議了承されました。

報告事項では、1.平成28年度庶務・事

業報告として吉岡充副会長(60期)から、会員数の推移、諸会議開催状況、経費支援を行っている医学部学生会事業の実施状況等について、2.平成28年度編集報告として田中伸哉編集理事(66期)から、同窓会新聞及び同窓会名簿の編集・発行状況について、3.平成28年度会計収支中間報告として武田会計理事から、収支途中状況について、4.平成28年度フラテ研究奨励賞選考結果として畠山鎮次理事(同賞選考委員)(66期)から、選考経緯及び選考結果についてそれぞれ報告されました。

総会終了後に、平成28年度フラテ研究奨励賞授賞式が畠山理事の司会により執り行われ、藤原圭志氏(78期)、山田大翔氏(会員2)に浅香会長から表彰楯及び研究奨励金が授与され、お祝いと激励の言葉が述べられました。

(事務局記)

■第93期新入会員歓迎会

総会に引き続き午後7時より同ホテル「ザ・テラスルーム」で第93期新入会員歓迎会が開催されました。

歓迎会は卒業生が参加しやすい日ということで、医師国家試験の最終日の夜に開催することが恒例となっていま

す。本年は2月11日(土)から13日(月)の3日間が国家試験であったためこの日の開催となり、93期卒業生のうち49名及び同窓会員37名が参加しました。

会は近祐次郎理事(74期)の司会により進められ、最初に浅香会長から国家試験の労いの言葉に続き「約100年の歴史を有する医学部同窓会は結束力が強く、各学部同窓会の中で最も活発に活動している組織です。北大医学部の先輩は国内はもとより世界中で活躍しているの、皆さんも大きな夢を持って世界に羽ばたいてください。」と新入会員を歓迎する挨拶がありました。

次いで医学部教職員を代表して笠原正典医学部長(56期)から「同窓会は会員の親睦組織であると同時に母校を支援する組織です。北大医学部という素晴らしい環境で学ばれたことを忘れずに、これからは皆さんが後輩を支援してあげてください。」と歓迎の挨拶がありました。

続いて高下泰三先生(32期)のご発声により乾杯をして開宴となりました。

会が進む中、新入会員を代表して鎌田千奈美さんの挨拶、ご来賓の實金清博北大病院長(55期)、古家乾JCHO北海道病院長(61期)、阿部弘札幌秀友会

病院名誉院長(37期)から新入会員に励ましのスピーチがありました。会を通して各テーブルでは新入会員と先輩方が談笑したり、記念写真を撮ったりする光景が見られました。

会の後半の余興では高下泰三先生が「My way」を、フラテ研究奨励賞受賞者の藤原先生、山田先生が受賞のコメントを述べた後、93期生の宮島徹君と目野晃光君が加わって「世界に一つだけの花」を熱唱しました。続いて93期生の棟方奈菜さんのピアノ演奏「BODY AND SOUL」で宴が盛り上がったところで、玉木長良教授(会員2)と大場雄介教授(72期)によるピアノ演奏「月光」に対し、会場から大きな拍手と声援が贈られ歓迎の宴が大いに盛り上がりました。

午後9時には名残惜しい雰囲気の中、多米豊先生(34期)による閉会の乾杯の後、毎年恒例となっている「都ぞ弥生」を漕艇部の高橋遼君の前口上に続いて参加者全員が輪となって大合唱し、本年の歓迎会は盛大に終了しました。

(75期 石田雄介 記)



高下泰三先生開会ご発声



實金清博先生スピーチ



古家 乾先生スピーチ



阿部 弘先生スピーチ



玉木教授と大場教授のピアノ演奏



多米 豊先生閉会ご発声

平成28年度総会資料

平成27年度 北海道大学医学部同窓会 会計収支決算書

項 目	予算額	決算額	実行率(%)
会費収入	20,438,000	19,860,491	97
コンビニ収納		15,819,342	
口座引落		137,149	
銀行振込		1,018,000	
郵便振替		2,886,000	
事業関連収入	200,000	240,000	120
広告収入	200,000	240,000	120
販売収入	0	0	0
雑収入	651,000	723,570	111
利息収入	1,000	1,590	159
保険事務費	650,000	721,980	111
当年度収入額	21,289,000	20,824,061	98
前年度繰越額	10,141,987	10,141,987	100
収入合計額	31,430,987	30,966,048	99

<支出(円)>

項 目	予算額	決算額	実行率(%)
事業費	11,000,000	10,785,328	98
総会・新入会員歓迎会	870,000	772,432	89
新聞・会誌印刷費	5,235,000	5,056,549	97
刊行物送付費	2,100,000	2,085,967	99
記念品費	110,000	167,392	152
学生会助成費等	970,000	770,000	79
フラテ祭助成費	300,000	300,000	100
研究助成費(フラテ賞)	1,100,000	1,077,004	98
学生表彰費(会長賞)	0	64,260	—
ホームページ更新費	80,000	86,400	108
会員登録システム改修費	100,000	324,000	324
寄附者感謝状(桶)作成費	135,000	81,324	60
総務費	8,970,000	8,808,024	98
職員給与費	4,900,000	4,927,611	101
諸保険事業主負担	950,000	940,836	99
諸謝金	30,000	30,000	100
会議費	150,000	243,136	162
渉外費	50,000	9,472	19
旅費交通費	150,000	110,810	74
印刷費	2,100,000	2,066,217	98
・会費請求書作成費			
通信費	300,000	331,131	110
消耗品費	220,000	136,931	62
備品購入費	100,000	0	0
振込手数料	20,000	11,880	59
その他	0	3,000,000	—
特別会計へ繰入	0	3,000,000	—
予備費	100,000	0	0
当年度支出額	20,070,000	22,593,352	113
収支差額	11,360,987	8,372,696	74

平成27年度 北海道大学医学部同窓会 特別会計報告書

銀行名	預金の種類	平成26年度末(27.3.31)預金額 円	期間受入額 円	期間利息 円	平成27年度末(28.3.31)預金額 円	備考
三菱UFJ信託銀行	定期預金	9,533,990	—	1,900	9,535,890	
三井住友信託銀行	定期預金	10,125,587	—	2,016	10,127,603	
北洋銀行	定期預金	3,044,443	3,000,000	543	6,044,986	経理上一般会計が認められ
北洋銀行	普通預金	2,078,289	610,000	376	2,688,665	※寄付金受入
合 計		24,782,309	3,610,000	4,835	28,397,144	

※寄付金受入状況 平成27年 6月11日 金200,000円 42期 西 信三様
 平成27年 8月 6日 金 10,000円 鹿児島市 医療法人藤田眼科
 平成27年12月 3日 金200,000円 28期 藤田 晋吾様
 平成28年 1月 8日 金200,000円 専門3期 吉村 誠治様
 鷺沢 篤郎様

平成27年度 会計監査報告書

北海道大学医学部同窓会
会長 浅香 正博 殿

北海道大学医学部同窓会監事として、会則第10条第4項の規定に基づき、平成27年度会計収支決算状況の監査を実施した。

監査の結果、出納簿及び関係書類の整備、並びに特別会計の預金等の会計処理は、適切かつ正確に行われているものと認めた。

従って、平成27年度の北海道大学医学部同窓会の会計処理は、決算書のとおり正当であると認めるものである。

平成28年4月18日 監事 橋野 聡
平成28年4月22日 監事 藤井 ひとみ

新入会員を歓迎して

北海道大学医学部同窓会会長 **浅香 正博**(48期)



医学部93期の皆さん、ご卒業誠にありがとうございます。北海道大学医学部同窓会は皆さんのご入会を心より歓迎いたします。医学部同窓会は北海道大学医学部の創設と同時に発足し、近々100年にならんとする歴史を有しております。約6300名もの会員から成り立っています。これから君たちは医学部同窓会が年に3回発行している同窓会新聞、隔年ごとに発行している同窓会員名簿と同窓会誌を受け取るようになります。

君たちも同窓会の一員としてこれらの編集に自然な形で携わることになりますので、よろしく願いいたします。医師という職業は、患者と直接向かい合い個人情報を共有しながらその病気を治していくことを目的としています。したがって、医師になったと同時に他の職業にはない大きな責任を負うことになります。今の医療は、医師を中心にして看護師、薬剤師などがチームを作り、協力しながら患者を治して

いくチーム医療が中心となってきました。したがってこれからは医師としてそのリーダーシップを発揮し、医療チームを率いて患者をできる限り早期に社会復帰させることを心がけて下さい。君たちがこれから入っていく医療界は日進月歩の世界であります。したがって卒業してからもしっかりと学び続けることがきわめて重要といえます。人から感謝されることが実感できる医師という職業はやりがいのある仕事ですので、将来年を経て人生を振り返ったときに充実感を感じることができるよう、それぞれがしっかりと人生設計を行って前に進んで行っていただきたいと思ひます。

北海道大学医学部は2019年に創立100

周年を迎えることになり、記念行事をどのように行っていくかについて同窓会と医学部が話しあひながら進めております。100年という大きな節目を迎えることでさらに新しい飛躍につながることを考えております。北海道大学医学部同窓会は、入会された93期の皆さんの発展と飛躍を心から期待し、できる限りの支援をいたします。なお同窓会の活動はすべて同窓会員から集めた同窓会費で賄われていることを忘れないで下さい。コンビニからも支払いができるようになりましたので、毎年の入金をくれぐれも忘れないようお願いいたします。

新入会員ご挨拶

鎌田 千奈美



この度、第93期生103名が北大医学部同窓会の一員になりました。103名を代表して僭越ながら一言ご挨拶申し上げます。2年後には医学部創立100周年も控えておりますが、このような長い歴史を持つ伝統ある同窓会の一員になれたことを大変嬉しく思っております。先日は私達のために、盛大な同窓会歓迎会を開催していただき誠にありがとうございました。歓迎会では諸先輩方から様々なお話を伺うことができ、

有意義な時間を過ごさせていただきました。同窓会がどのような活動をしているのか初めて知ることも多く、諸先輩方や関係各所のご支援があって私達の学生生活が充実したものになっていたのだということを理解し、感謝の思いでいっぱいになりました。この場をお借りして改めて御礼申し上げます。また、諸先輩方には在学中に講義や実習等でお世話になり、右も左もわからなかった私達をここまで導いていた

いただきました。学問としての医学はもちろんのこと、医師として心構えや、生涯医学を学び続ける姿勢など、多くのことを教えていただき、本当にありがとうございました。世界をリードする大きな仕事をされている先生方から直接教えていただく機会も多く、北大医学部で学ぶことができ本当に良かったと思っております。

私達はこの春から医師としてそれぞれの道に進むこととなりますが、やっとスタート地点に立てたのだという喜びと、新たな学びの場に出られるという期待感でいっぱいです。同時に、いよいよ人命を扱う仕事に就くのだということに身の引き締まる思いもしております。医師としての自覚と責任を持

ち、全身全霊を捧げて全ての尊い命と向き合い、知識と技術を磨き続けるよう努力いたします。未熟な私達にとって、尊敬できる諸先輩方が道内外問わず全国に大勢いらっしゃることは、大変心強いことです。今後も93期生が様々な場面でお世話になる機会があると存じますので、変わらぬご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。最後になりますが、北大医学部同窓会のさらなるご発展と、諸先輩方のますますのご活躍を祈念いたしまして、93期代表のご挨拶にかえさせていただきます。

第93期生名簿(103名)												平成29年5月1日現在	
氏名	出身高校	勤務先(予定)	氏名	出身高校	勤務先(予定)	氏名	出身高校	勤務先(予定)	氏名	出身高校	勤務先(予定)		
青木 礼奈	札幌南	市立札幌病院	金子 志帆			砂土居泰生			藤田 祥博				
安達 大揮	札幌南	静岡県立総合病院	鎌田 弘毅	札幌南	市立函館病院	瀬尾 祥			前田 啓介				
有賀 茜		国立国際医療研究センター	鎌田千奈美	札幌北	市立函館病院	瀬尾 拓志			松浦 賢史	白陵	湘南藤沢徳洲会病院		
幾島 拓也			亀野 力哉			赤城 秀紀	札幌南	天使病院	水野 えり	東京学芸大学附属	東京大学医学部附属病院		
池田 寛	崇徳	岸和田徳洲会病院	河内麻里亜	青森県立三本木	苫小牧市立病院	高橋 周平			三田村真太郎				
石田有莉子			川村 拓朗	八戸	北海道大学病院	高橋 正樹	春日部	函館中央病院	三橋友理子	慶應義塾女子	東京医科歯科大学病院		
石津 帆高			北川 靖洋			高橋 遼	愛知県立旭丘	天使病院	峰村 明里	立命館慶祥	北海道医療センター		
石塚 千紘	立命館慶祥	岩見沢市立総合病院	木津 謙也			田上 敬太		小樽市立病院	宮崎 智彦	熊本	帯広厚生病院		
石塚 桃子			久住麻唯子	札幌南	苫小牧市立病院	田中 秀五	北嶺	斗南病院	宮島 徹	北嶺	亀田総合病院		
伊東しほり	旭川東	手稲溪仁会病院	工藤ありさ	札幌北	KKR札幌医療センター	田原 就			宮本 航大	札幌北	JCHO北海道病院		
伊藤 健史	札幌北	国際電気通信基礎技術研究所	黒澤 風花			玉手なつみ		勤医協中央病院	棟方 奈菜	福島県立福島	帯広厚生病院		
今成 隼人			齋藤 翔太			足澤萌奈美			目野 晃光	明星	仙台市立病院		
岩見 昂亮			齋藤祐美花	札幌南	苫小牧市立病院	徳廣 泰貴	旭川東	釧路労災病院	李 里花	札幌南	函館中央病院		
印南 裕貴	滋賀県立彦根東	福井赤十字病院	佐藤 航司	北嶺	旭川赤十字病院	長井 惇	札幌南	釧路労災病院	森 結子	旭川東			
上松 由昌	駒場東邦	北里大学病院	佐藤 祐麻	札幌東	JCHO札幌北辰病院	中島穂太郎			森木 耕陽				
江島 隆平			真田 太郎			長島 諒太		王子総合病院	保浦 直弘	札幌南	苫小牧市立病院		
太田 純哉	千葉	北見赤十字病院	重元 守	札幌北		長田 悠里			安田 充孝	札幌北	帯広厚生病院		
岡崎ななせ	札幌南	市立旭川病院	志藤 茜			長塚 大騎	秋田県立横手	新東京病院	山口 真和	浜松北	名古屋第二赤十字病院		
岡崎 遼			篠原あすか	札幌南	市立札幌病院	奈良平敦司	東京学芸大学附属	日鋼記念病院	山崎慎太郎	滋賀県立膳所	手稲溪仁会病院		
小川 裕生	静岡	伊東市民病院	清水 淳貴	札幌南		西尾 安人	小樽潮陵	深川市立病院	山本竜太郎				
小田総一郎			下濱 祥	北嶺	国保旭中央病院	野村 朝子	成蹊高校	北見赤十字病院	横川 涼介	札幌南	天使病院		
各務 雅基			白鳥 翔也			早坂 秀平	北見北斗	市立函館病院	横山 達也	岩見沢東	帯広厚生病院		
柏木 彩花			新藤 利一	武蔵村山		原田 二郎			吉川 一平				
片岡 慶次			鈴木啓太郎	北嶺	勤医協中央病院	平口菜津美			吉仲阿佐美				
片山 奨	札幌南	苫小牧市立病院	鈴木 聡			深澤 拓夢			渡邊幸太郎				
加藤 泰典			鈴木 久崇	札幌南	江別市立病院	藤井信太郎							

平成28年度同窓会会長賞報告

本賞は、次の一に該当する医学部医学科を卒業する学生を顕彰することを目的に、平成27年度に創設されました。

- (1)学業成績に対する表彰
学業成績が特に優秀で、かつ、人格に優れた者 3名以内
- (2)研究活動に対する表彰
学会、学会誌等で優れた評価を受けた者
- (3)課外活動に対する表彰

全国規模の競技会、コンクール等で優勝した団体の主将、または個人

- (4)社会貢献に対する表彰
ボランティア活動、人命救助、災害救援等の社会活動において、活動実績が認められ、他の学生の模範となった者
- (5)その他の活動等に対する表彰
その他前4号に準ずるもので、同窓会会長賞にふさわしいと認められる者

受賞者は、毎年2月に医学部長から推薦された候補者について選考し、第2回目となる平成28年度は次の4名を受賞者として決定しました。

授賞式は3月23日(木)に開催された医学部医学科学学位記伝達式で、浅香正博同窓会長(48期)から表彰楯が贈呈されました。

- (1)学業成績に対する表彰
鎌田 千奈美 柏木 彩花 岡崎 ななせ
- 【授賞理由】 在学中の学業成績が特に

優秀で、かつ、人格に優れている。

- (2)研究活動に対する表彰
中島 穂太郎
- 【授賞理由】 在学中に腫瘍病理学分野において熱心に研究に取り組み、その成果を筆頭演者として、第104回日本病理学会総会で発表し高い評価を得た。

(敬称略)

新入生ご挨拶

第99期代表 朝陽 俐那



この度第99期生として北海道大学医学部に入学いたしました朝陽俐那と申します。今年度より、伝統ある北海道大学医学部及び北海道大学医学部同窓会に入らせていただくことになり、心よりうれしく思っております。僭越ながら第99期生を代表いたしましてご挨拶申し上げます。

そもそも医学部を目指した契機は、わたしを支えてくださった方々に恩返ししたいと思ったことでした。思想によって誰かの敵味方になることなく、自らの意志と技術で常に他人の助けになる存在の一つは医師だと思いました。目の前で苦しむ人を助ける者に対し、如何なる者が敵になれるのでしょうか。

そう思って医学部を志しまして今に至ります。わたしの家に伝わる家訓に「勤學」があります。これは今までわたしを律するものでしたが、一方で、今学生としてできる、最も重要な姿勢であると思っています。医学部入学は出発点に過ぎないと多くの先生方が仰るように、どんな困難があろうと、わたしたち新入生はこれからも謙虚に修学し続ける必要があります。

誉れ高き北海道大学医学部に籍を置くわたしたちは、他人を尊重する人間に成長できるよう邁進する所存です。これからわたしたちは医学部で6年をと

もに歩むこととなりますが、勉学のみならず他人を真摯に助けようとする奉仕精神を育むことをも心掛けたいと思っております。これからお世話になります諸先生方、大学関係者の方々、先輩方におかれましては何卒ご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

最後に、ここまでわたしの道標となってくれた両親に感謝するとともに、素晴らしい医師を志すことを誓いまして、ご挨拶とさせていただきます。

平成29年4月 1年次入学者名簿(102名)

氏名	出身校	氏名	出身校	氏名	出身校	氏名	出身校	氏名	出身校	氏名	出身校
朝陽 俐那	愛知県立刈谷	山田 芳郎		石倉慶太郎	海城	上羽 駿	札幌光星	若本 美和	札幌南	岸部 丞	旭川東
小林 堯成	開成	蘆田 隆晟	旭川東	近藤優里奈	南山	田邊 優一	札幌南	大西 元	帯広柏葉	藤島 京祐	北嶺
宮地 駿介	札幌南	金井 美緒	天王寺	島田 浩生	金沢泉丘	林 佐保	東京学芸大学附属	長澤 佑	開成	紀田 貢三	京都市立堀川
荒船真由子	頌栄女子学院	齋藤 武尊	札幌南	渡辺 涼	小樽潮陵	内田 悠晶	函館工業高等専門学校	小笠原 究	札幌光星	古岡倫太郎	帯広柏葉
小林 達矢	愛知県立刈谷	吉田 尚平	開成	泉 信輔	北嶺	谷川 俊樹	海城	成田 遥紀	愛知県立岡崎	木俣 仁	仙台青陵中等教育
村下 太一	北嶺	荒井 駿佑	札幌南	佐藤 真鈴	藤女子	萬代 高子	島根県立松江南	小川 晋平	世田谷学園	堀川 輝久	本郷
榎枝 未紗	茨城	兼安 亜侑	敬愛	新堂 大我	岡山白陵	内田 義之	埼玉県立川越	西山 慧	巣鴨	久木田 涼	北嶺
小松 大我	栄東	榑原 滉大	北嶺	和田 侑也	札幌南	寺倉 雅史	札幌月寒	尾関 快	県立岐阜	松井 拓弥	札幌日本大学
村田 達弥	北広島	渡邊 淳慈	釧路湖陵	磯崎 大希	水戸第一	平川 萌	札幌南	畑 宗一郎	麻布	河野 樹	札幌西
大内 晴加	神戸海星女子学院	荒川 泰璃	札幌南	清水 晶帆	札幌南	餌取 黎	帯広柏葉	鬼塚洋之進	宮崎西	松川 暁則	岡崎
小宮山 仁	札幌西	菊地すみれ	愛知県立旭丘	須山 力	稚内	寺島 祐樹	札幌南	林 凌馬	旭川東	小久保悠真	東海
室原 健人	東海	佐々木 暉	北嶺	岩佐 拓真	札幌南	丸尾 美帆	札幌北	可児 涼真	札幌南	松波 宏汰	滝
岡村みのり	神戸	渡邊 佑	札幌北	須藤ゆきほ	愛知県立刈谷	大國麟太郎	聖光学院	原 雄大	小石川	兒玉 徳	麻布
近藤健太郎	滝	池田 和隆	札幌南	高瀬 了輔		徳井 秀大	札幌北	金子 侑平	本郷	三浦 惇	札幌北
山口健太郎	札幌南	木次谷真由	市川	上島優太郎	札幌北	依田 恵	群馬県立高崎女子	引田 匡哉	開成	青井 夏帆	札幌大谷
金井真由子	立命館慶祥	眞田 大樹	札幌清田	武田真太郎	栄光学園	大越 康右	函館ラサール	川井 直久	東京学芸大学附属	小西 晴己	旭川東
雑賀 将	神戸	渡邊 大介	兵庫県立神戸	竹部 温子	群馬県立高崎女子	中駄 勇太	札幌南	檜山 周作	函館中部	箕作 和樹	サレジオ学院

平成29年4月 2年次進級者名簿(5名) ※総合教育部から移行

氏名	出身校	氏名	出身校	氏名	出身校	氏名	出身校	氏名	出身校
有田 梨乃	旭川東	森松はるな	札幌北	武石 侑杜	札幌開成	山口 雄大	愛知県立国府	野田 暉翔	麻布

平成29年4月 2年次学士編入学者名簿(5名)

氏名	出身校	氏名	出身校	氏名	出身校	氏名	出身校	氏名	出身校
尾崎 眞史		高橋 邦彰		川内 真		吉田真之介		嶋谷 幸佑	

教授退任ご挨拶



生殖内分泌・腫瘍学分野
さくらぎ のりあき
櫻木 範明 (52期)

この度、北海道大学を退職することになりました。1970年の医学部入学以来、47年間を北海道大学と医学研究科・医学部の皆様にお世話になりました。2002年からは医学研究科婦人科学分野(現生殖内分泌・腫瘍学分野)教授の重責にあたらせて頂き、周囲に支えられながらここまで来ることができました。私は、クラーク先生による”Boys, be ambitious!”のchallenging spiritと新渡戸

稲造先生がBushidoで示した仁愛と確固とした信念に基づく生き方を伝統とする北海道大学の卒業生として、母校を常に誇らしく思いながら対外的な活動を行って来ました。今後もこの気持ちは変わりません。

教授の最も優先度の高いタスクは後輩の育成です。若い先生たちと議論しながら婦人科がん治療における手術成績の工夫・向上を図って来ました。教室員には臨床データを論文文化して医学・医療の発展に貢献することが、大学という恵まれた場所で勤務する機会を得た医師の義務であることを伝えてきたつもりです。後輩の成長が大きな励みになります。

最近の医療は高度化、複雑化しており、若手医師を系統的に教育・指導して一人前に育成することが必要です。標準技量を備えた医師を育成することが医師そのものを守り、また患者を守ることになります。大学などの基幹施設と地域の中核病院をローテートし、豊富な症例を経験し、同時に科学的思考法を身につける事が大切です。カリキュラムがあれば良いというものではなく、カリキュラムに基づいて専攻医の達成度を指導医が評価・指導すること、専攻医の経験内容や技能修得レベルをシステムとしてチェックすることが専門医制度の中核です。残念ですが、本来

の専門医制度の目的と計画が利害関係者の思惑で大きく毀損されてしまいました。いずれまた本道に戻ることを期待しています。

産婦人科医の使命は「母子の健康を守ること」「女性の生涯の健康を守ること」です。女性が安心して妊娠し、健児を出産して未来に命を連綿とつないでいくこと、社会でアクティブに活躍することを支援することです。医療は患者と社会のためにあり、医療を最終的に評価するのも市民と社会だと信じて、これからも北海道大学医学研究科・医学部と産婦人科学教室が発展していくことを祈っております。



耳鼻咽喉科・
頭頸部外科学分野
福田 諭
(52期)

あとわずかで、退職となります。現在の北大の規定では、63歳時に北大時報3月号に「定年退職を迎えるにあたって」が載ります。2年経った今もほとんど変わらぬ思いですので、その時の文章をベースにさせていただきます。

私は大学紛争さめやらぬ昭和45年に北海道大学に入学し、昭和51年に医学部耳鼻咽喉科学講座に入局、その後1年

間の関連病院研修（市立札幌病院）と2年間の米国留学（サンディエゴ）を除き、ずっと北海道大学でお世話になりました。このすばらしいキャンパスの中で学生時代を入れると半世紀弱もの間、教育（受け身も含め）・診療・研究に従事できたことは本当に幸せでした。

学位のテーマであった内耳蝸牛の免疫組織学化学的研究では、なかなか切れずそしてきれいに染まってくれない標本を前に当時本当に寒かった真冬の実験室でため息をついたことも良い思い出ですし、頭頸部癌の集学的治療においては境界領域といわれていた頭蓋底、上縦隔の手術を含め10時間を超え

る拡大切除・再建手術を関係各科の協力のもとチーム手術・チーム医療として毎週のようにヘトヘトになりながら行ってきたのも懐かしく思い出されます。

最近の学生・大学院生や若い方をみていて、せっかくこの北海道大学に入ったのだから、あまりこじんまりと平均的・画一的に小さくまとまらないで、「大志を抱け」の教訓どおり少し荒削りでも大きく伸びて行って欲しいと感じています。

また平成22年から、3年間ではあります北海道大学病院長として管理・運営に携わる機会を得て、今までとは全く違った視点で色々な仕事をさせて頂

いたことも私にとっては貴重かつ充実した経験でありました。特に3.11における、病院全体の結束感、一体感は素晴らしいものでした。

札幌で生まれ、札幌で育ち、あこがれであったこの北海道大学に入学し、長きにわたり良い環境で仕事できたことに、あらためて感謝の気持ちで一杯です。

最後になりますが、母校北海道大学そして医学研究科・医学部（4月から医学研究院・医学院）、北海道大学病院のますますの発展を心より祈念致しております。

2017年3月



産科・生殖医学分野
水上 尚典
(会員2)

北大に2001年4月1日（日曜日）着任した。それから16年、振り返ればあっという間であったが、日記を辿るとまさに多事多難であったことが思い出される。しかし、こうしてなんとか北大教授職をまっとうすることができたのも、先輩、同僚、ならびに後進の方々のお力添えがあって初めてなし得たことと心より感謝している。

この16年間に、小学生と中学生であった2人の息子達は成人し、昨年春には初孫にも恵まれた。人生は本当に偶然に支配されるものだ。私は栃木県で生ま

れ、そして育った。こどもの頃から曾祖母に「あなたは弁護士になんない」と言われ続けた。そのこともあり、高校生の頃、自分が住む地域を比較的自由に選ぶことができそうな弁護士あるいは医師になろうと思った。「兄が医学部進学したらオレは法学部に」と思っていたが兄のもくろみは失敗に終わり兄は法学部に、私は群馬大学医学部に進学した。あまり登校せず、麻雀ばかりしていたら、初めてできた彼女にふられ、約1年間の極端な喪失感と色彩感のない世界を経験した。失恋し心がロボットようになった（毎日定刻に登校するようになった）ため私は医師になれた。外科実習時、私には手術は不可能と思ひ、皮膚科医になろうと思っていたやさき、勧める方がいて、生まれ故郷にできたばかりの自治医大で産

婦人科医になることになった。医師になって間もない頃、テレビをみて憧れた生活がある。東京近郊より斜里町に引っ越した家族の映像であった。何よりも、海岸に流れついた流木を暖房の糧とし、みそ汁の具は海岸に流れ着いた昆布というものである。それ以来、「定年後は雪のある北海道海岸沿いの町に住んでみたい」が私の願望であった。北大教授になったいきさつは以下である。2000年の夏頃、北大より封書が届いた。北大産科生殖医学分野教授として推薦する方がおり、立候補しないかというものであった。私は気乗りしなかった（書類等作成がめんどうだったし、北大教授可能性は極端に低いと思っただけ）が、師事していた自治医科大学産婦人科佐藤教授が言うには「水上君、来たバスには乗るものだよ」。そして、

書類を北大あてに送った。当時心底嬉しかったが、なんとも難儀（責任の重い意）な16年を札幌で送ることになった。しかし、北大教授職を得て、作成に困難を極めた「産科ガイドライン」を世に問う事ができた。優れた同僚や後進に恵まれ、論文を多数執筆することもできた。

これまでの人生に悔いはない。余生をのんびり暮らしたいと思っている。私を支えてくれた北大すべての方々ならびに私の自由を許してくれた妻と息子達に本当に感謝している。北大の発展を祈念している。ありがとうございました。

2017年3月



核医学分野
玉木 長良
(会員2)

北海道大学の核医学講座に着任して、21年余りが過ぎました。この間、院内サイクロトロンとPETの北大病院への導入をはじめ、産学連携プロジェクトの立ち上げや、大学や病院関係の種々の役職に至るまで、様々な貴重な経験をさせていただきました。

PETシステムの立ち上げには、今後の需要を予想して最新鋭のPET装置2台と、2種類の薬剤を同時に合成でき

るフル装備の小型サイクロトロンを導入しました。ついで私が取り組んだのは、産学連携の強化です。これを用いた研究を遂行していくには、医師はもちろん、解析の専門家と薬剤合成の専門家が必要となります。これらのポストの確保のために、寄付講座の設置を進め、設置後にはその成果を内外に公表できるように、セミナーや国際シンポジウムなどを何度も実施してきました。何よりありがたかったのは、北海道大学で「未来創薬・医療イノベーション拠点形成」と題した10年間の産学連携の大型プロジェクトの医療側の統括責任者を担当したことです。きびしい審査を通り抜けて、高い評価を受けまし

た。これで産学官連携のもと、分子イメージングや分子標的放射線資料などの研究発展ができましたし、人材育成にも大きく寄与できました。

長年大学で教授職を務めていると、いろいろな役職がまわってきます。2006年からは大学本部の役員補佐を、翌年からは副病院長と医療安全管理部長を拝命しました。また2011年からは医学研究科長、医学部長を担当しました。その中で特に力を注いだのが医学教育です。ちょうど教授会のメンバーの新旧交代の時期に当たり、私が在任中の2年間で12名の新任教授が誕生しました。新しく選ばれた方々は皆魅力あふれる先生方ばかりで、今後医学研究

科の発展は間違いないと信じています。

21年余りもあっという間に過ぎ去っていきました。これまでの間に多くの方々にお世話になり、存分に仕事をさせていただきました。この北大を去るにあたって、いろいろな思い出が走馬灯のようにめぐります。幸い教職員も十分育ってきていますし、今後は次の世代に譲りたいと思います。長年の間お世話になった同窓会の諸先生方をはじめ、関係の皆様から心から感謝しますと共に、北海道大学の益々のご繁栄を祈念します。

春の褒章、叙勲

旭日双光章受章

元渡島医師会会長



おおきた たけお
大北 健雄
(47期)

35年余り町医者をやっている者として、今回の受章は光栄なことと思っています。渡島医師会会長として8年間、同じ地域の包括をしている渡島振興局の保健所との仕事や、函館市とその近郊の地域の救急医療体制の構築に少しは貢献したこと、又、数年前にいただいた北海道貢献賞、厚生労働大臣賞の延長としての今回の受章と思っています。

フラテ祭2017 9月開催

フラテ祭2017を、9月30日（土）に開催いたします。

フラテ祭は、平素からご支援をいただいております関係各位と医学部の親睦をさらに深め、医学部の現状を見ていただくことにより今後の抱負や課題を認識していただくための場として、2007年9月に第一回目を開催いたしました。

第十一回目を迎える本年度も、北海道大学ホームカミングデーと同日開催いたします。北大医学部の変化・革新をお伝えしつつ、なごやかな催しとなるよう、準備を進めております。

詳細につきましては、同窓生の皆様方へは7月上旬頃改めてお送りするご招待状にて、お知らせいたします。ふるってのご参加をお待ち申し上げます。

フラテ祭実行委員会事務局
TEL：(011) 706-5012
FAX：(011) 706-7855

日時：2017年9月30日(土) 午後～
場所：北海道大学医学部/フラテ会館

平成28年度 医学研究科・医学部医学科各賞受賞者

特別賞受賞



「受賞に感謝を込めて」
北海道大学
名誉教授
田邊 達三
(30期)

業績名：外科学の歴史研究を基盤とした医療者育成に関する長期的貢献

この度、図らずも医学研究科の特別賞を頂き、大変光栄なことに感謝申し

上げます。私は1947年に北海道帝国大学予科に入学して以来、今日まで70年にわたって大志の学風に築かれた学舎北大に学び、クラーク精神に支えられ、生きがいを教えられてきました。振り返って、日々医師として、また研究者として北大に学んだ幸運な人生に感謝してきました。1993年に定年退官するまでの約50年間の在学中は、終戦の混乱から復興する医学変貌の最中でした

が、外科学の教授、北大病院長、北大医学部長という激職を経験させて頂きました。幸いなことに、激しく進展した20世紀の医学の真っ只中で、専門とした外科学、特に心臓血管外科、呼吸器外科、消化器外科の胸部外科の分野は日進月歩の進展を続け、私はその最先端の現場で、第一線の医学、医療を学び挑戦することができました。大学退官後も、NTT東日本札幌病院の病院長、地域医療財団、社会事業協会などで医療の現場に務め、最良の医療を社会に還元することに意欲を燃やしまし

た。同時に医学部同窓会長の任にも当たりましたが、この間、多くの先輩、同僚、後輩との交流を深めることが出来ました。80歳を超えて齢を重ねる最近では、第二外科、循環器呼吸器外科の同門一同に励まされ、医学史に興味を寄せながら外科の発展について、語り部的な講演や著述もしてきました。残された日々の中で、栄えある受賞を頂いたことに御礼を申し上げ、母校の益々の発展を祈念致します。

優秀研究賞および優秀論文賞を受賞して



免疫・代謝
内科学教室 教授
渥美 達也
(64期)

業績名：全身性自己免疫疾患の診断・治療開発のための病態解明

論文題目：The first double-blind, randomised, parallel-group certolizumab pegol study in methotrexate-naive early rheumatoid arthritis patients with poor prognostic factors, C-OPERA, shows inhibition of radiographic progression.

このたびは栄誉ある北大大学院医学研究科・平成28年度優秀研究賞ならびに優秀論文賞をいただき、たいへん光栄に存じます。笠原正典研究科長はじめ、これまでご指導いただきました医学研究科ならびに同窓会の皆様、あらためまして御礼申し上げます。

私は昭和63年に北海道大学医学部を卒業いたしました。在学中から「臨床免疫学」という、何とも崇高でアカデミックなネーミングにひかれ、

当時、中川昌一先生が指導されていた内科学第二講座へ大学院生として入局いたしました。初期研修医として経験した全身性エリテマトーデス(SLE)を含む膠原病や関節リウマチ(RA)の症例はたいへん印象的でした。膠原病に対してはステロイドの大量投与という治療方法はあったものの、合併症は多大であり、多くの患者さんが大きな障害を残しました。当時は「慢性関節リウマチ」とよばれたRAには効果的な治療法がなく、全身のあらゆる関節が破壊された患者さんに出会いました。そういった患者さんがたに直接役に立つ研究を、という強い思いを当時から持ち続けています。私が大学院を修了してすぐ、前任の小池隆夫先生が第二内科の教授として千葉大学から赴任されました。小池先生の紹介でロンドンの聖トーマス病院へ留学にでて、師事したのがグラハム・ヒューズ先生でした。同院は英国きってのSLEのセンターであり、非常に多くの患者さんが集まっていました。この場所で私は、SLEの代表的な合併症のひ

とつで、ヒューズ先生が提唱した自己免疫血栓症である「抗リン脂質抗体症候群(APS)」の病態の研究に没頭するようになりました。帰国してからも一貫して「なぜ自己抗体が血栓をおこすか、それをどうしたら制御できるか」をテーマに研究を続けてきました。自己免疫そのものを制御するのではなく、自己免疫の結果としておこる臓器障害を制御することが現実可能な治療法開発になるとの信念からでした。これまで20余年をかけて、その病態の一部を解明したことが今回の優秀研究賞につながっております。一方、APSやSLEに比べて患者数の多いRAは、本邦でも2003年に導入された分子標的療法が格段に効を奏し、治療のパラダイムシフトといわれるようになりました。私は、投与可能な限界量までのメトトレキサートに併用してTNF α を標的にした治療を発症直後のRA患者におこない、1年間ののち寛解にはいっていたら抗TNF α 療法を終了する、というプロトコール(C-OPERAプロトコール)の関節破壊抑制効果を検証する多施設試験(治験)をおこなう機会がありました。発症早期に強力な治療介入をおこなうことで約85%

の患者さんにまったく関節破壊を残すことなく治療できることを証明したこの試験の結果は、リウマチ学領域のトップジャーナルのひとつであるAnn Rheum Disに採択され、今回それが優秀論文であるとお認めいただきました。

私どもの免疫・代謝内科学教室は、おかげさまでだんだん大きくなっていきます。私の研究のテーマである膠原病の研究に従事する現役教室員は25人ほどになり、スタッフの尽力によっていっそう研究の範囲をひろげております。今回の優秀研究賞、優秀論文賞とも、教室員全員のこれまでの努力に対して与えられたものと考えます。この場をお借りして、医学研究院 免疫・代謝内科学教室、北大病院内科IIの皆様、こころより敬意を表したいと思います。同窓会の皆様におかれましては、当教室に対するますますのご指導、ご支援を、どうぞよろしく申し上げます。

優秀論文賞を受賞して



整形外科学分野
特任研究助教
角家 健
(71期)

論文題目：Spinal cord reconstitution with homologous neural grafts enables robust corticospinal regeneration.

この度は優秀論文賞を拝受し、誠に光栄に存じます。まずは受賞に際して、多大なサポートをいただきました、岩崎倫政教授をはじめ、教室員、同門の先生の方々、医学統計学分野の伊藤陽一先生、そして、カリフォルニア大学サンディエゴ校のMark Tuszynski教授とその研究室の方々に深く感謝いたします。

本研究は、脊髄損傷部に神経幹細胞を移植することで、損傷した軸索を再生させ、失われた神経回路を再形成し、運動機能を回復させることに成功したものです。ヒトのiPS細胞からも同様の効果を得ることができました。重要な点は、脊髄への分化能を持った幹細胞を使用しなければ、そのような再生効果を得ることができない点です。今回の成果をもとに、中枢神経が再生するメカニズムを解明する研究や、脊髄損傷への新しい治療法を開発する研究へ

とつながります。また、神経幹細胞移植により、脊髄損傷を受傷された患者さんの運動機能を改善することが期待されます。

今回、このような栄誉ある賞を頂いたことは、大変大きな励みとなっております。今後も神経組織の再生に関する研究に尽力する所存ですので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

優秀論文賞を受賞して



呼吸器内科学分野
(内科I) 助教

鈴木 雅 (76期)

論文題目: Asthma-like features and clinical course of chronic obstructive

pulmonary disease. An analysis from the Hokkaido COPD cohort study

この度は優秀論文賞を受賞させて頂き、誠に光栄に存じます。今回の論文は当科を中心に2003年より開始された10年間に及ぶ前向き観察研究「北海道COPDコホート研究」からの成果の一つです。ご指導頂きました西村正治教授、

共著者の先生方をはじめ、各参加病院の先生方、研究事務局のスタッフの方々、そして本研究にご参加頂きました患者の皆様は厚く御礼を申し上げます。

近年、慢性閉塞性肺疾患(COPD)と気管支喘息の合併病態が注目されておりますが、本論文で臨床的に喘息とは診断されないが気道可逆性、末梢血好酸球増多、アトピー素因といった喘息様検査所見を有するCOPD患者の特徴を検討したところ、喘息様検査所見を有する数が多いほ

ど呼吸機能低下の進行が緩やかであり、複数の喘息様検査所見を有している患者群は10年間の生命予後が有意に良好でした。これまでCOPDと喘息の合併は予後不良と言われてきましたが、臨床的に喘息が除外されたCOPD患者では喘息様検査所見の存在はむしろ良好な臨床経過と関連することが示されました。

今回の受賞を励みに、今後も質の高い臨床研究の成果を世界に発信できるよう、努力して参りたいと思います。

優秀論文賞を受賞して



スポーツ医学分野
和田 進 (82期)

この度、Advanced Materialsに掲載された論文“Double-network hydrogels strongly bondable to bones by spontaneous osteogenesis penetration”により「優

秀論文賞」の栄誉を賜り誠に光栄に存じます。本論文の執筆にあたりご指導頂いた指導教官をはじめ、共著者ならびに関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

先端生命科学研究所ソフト&ウェットマター研究室との共同研究により人工軟骨材料として有望なダブルネットワークゲル(DN)を開発しましたが、このDNゲルを臨床応用するためには

「骨との強固な固着が得られていない」という課題を解決する必要がありました。新技術により、ゲルの被接着面に限局してハイドロキシアパタイト(HAp)を複合化したHAp/DNゲルを複製し、そのナノ構造と材料特性を評価するためのin vitro研究、および生体内骨接着性を評価するためのin vivo研究を行いました。その結果、HAp/DNゲル表面にはHApナノ結晶が散在し、優れた材料特性を有することを明らかにしました。さらに生体内ではゲル内のHApナノ結晶が周囲の骨原性細胞の生

物学的骨リモデリング反応を誘導し、境界領域にゲルと骨のハイブリッド層を形成することによってゲルと骨が強固に固着することを明らかにしました。世界初の骨固着能を有する高強度ハイドロゲルの開発により人工軟骨開発研究が前進しました。

今回の受賞を励みに、これからより一層の努力をする所存です。今後ともご指導を賜りますようお願い申し上げます。

優秀論文賞を受賞して



解剖発生学分野
助教
内ヶ島 基政 (83期)

論文題目: Dopamine synapse is a neuroligin-2-mediated contact between dopaminergic presynaptic and GABAergic postsynaptic structures.

この度は優秀論文賞を頂くこととな

り大変光栄に存じます。本論文を推薦していただいた解剖発生学分野の渡辺雅彦教授には深謝致します。ニューロン間の特殊な接着構造であるシナプスは、シナプス前部と後部にそれぞれ神経伝達物質の放出部位とその神経伝達物質の種類にマッチした受容体に向かい合わせるように配置させることで、速く正確な情報伝達を実現します。本論文では黒質線条体路ドーパミンニューロンが形成する「ドーパミンシ

ナプス」と呼ばれるシナプス構造が、シナプス前部にドーパミン放出に必要な分子群を備えているのに対し、シナプス後部ではドーパミン受容体ではなくGABA受容体を集積させたミスマッチシナプスであることを発見しました。一方でドーパミンシナプスがドーパミン受容体を豊富に発現するニューロン上で多数認められたことから、ドーパミンシナプスは典型的なシナプスとは異なり、緩やかな選択性を持った情報伝達を行うための分子装置であるという新たな説を提唱することができました。本プロジェクトを開始した当初は

私自身がドーパミンシナプスを可視化するために必要な技術を十分持ち合わせておらず苦勞の連続でしたが、プロジェクトの進行過程で電子顕微鏡を用いた分子検出技術の改善や光学顕微鏡の高感度化など、解析技術の劇的な向上にめぐり合わせたのも幸運でした。これまでに多大なご指導を頂いた渡辺教授および渡辺研メンバー、そして日々サポートしてくれた家族に感謝したいと思います。今後とも同窓会の皆様のご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

優秀論文賞を受賞して



呼吸器内科学分野
博士課程4年
北井 秀典 (84期)

論文題目: Epithelial-to-mesenchymal transition defines feedback activation of receptor tyrosine kinase signaling induced by MEK inhibition in KRAS

mutant lung cancer.

この度は優秀論文賞を受賞させて頂き誠に光栄に存じます。受賞に当たりサポート頂きました西村教授、また直接研究の御指導を頂いた金沢大学がん進展制御研究所/腫瘍内科の矢野教授、衣斐准教授をはじめとした共著者の方々に厚く御礼申し上げます。KRAS変異は日本では肺癌の約5-10%程度に認められますが、これまで有効な

分子標的治療は確立されておませんでした。KRAS変異における細胞内伝達経路では、MAPK経路が重要な経路とされています。このMAPK経路をターゲットとしたMEK阻害薬が開発されましたが、臨床試験においてその効果は十分ではありませんでした。私たちはKRAS変異肺癌細胞株においてMEK阻害薬を投与した際の耐性メカニズムについて研究を行いました。そして、KRAS変異細胞株にMEK阻害薬を投与すると、腫瘍の上皮間葉移行状態(EMT)に応じて異なる受容体チロシンキナー

ゼ(RTK)の活性化が生じ、MAPK経路が再活性化されることを明らかにしました。実際にマウス腫瘍モデルにおいてMEK阻害薬とRTKの阻害薬による併用療法を行ったところ、著明な腫瘍縮小効果が認められました。今回の研究結果からKRAS変異肺癌においてEMTをバイオマーカーとして初めて有効な分子標的治療が実現できる可能性があります。今回の受賞を励みに今後も精進していきたく思いますので、これからもご指導賜りますようお願い申し上げます。

優秀論文賞を受賞して



免疫・代謝内科学分野
客員研究員
神田 真聡 (85期)

この度は、私のProceedings of the National Academy of Sciences of the United States of Americaに掲載されました論文「Transcriptional regulator Bhlhe40 works as a cofactor of T-bet in the regulation of IFN- γ production in

iNKT cell」に対しまして、平成28年度北大大学院医学研究科優秀論文賞を賜り、大変光栄に存じます。選考委員の先生方、並びに研究の推進に多大なご支援を頂きました免疫代謝内科学分野渥美達也教授、遺伝子病制御研究所免疫生物分野清野研一郎教授、香城諭先生、理化学研究所総合生命医学研究センター谷口克教授、並びに共同研究者の方々に深く感謝致します。

本論文は腫瘍免疫や自己免疫において重要な働きをするとされるinvariant

NKT (iNKT)細胞におけるinterferon-gamma (IFN- γ)の産生制御機構を明らかにした研究です。今回注目した分子のBasic helix-loop-helix family member e40 (Bhlhe40)は、時間医学講座本間研一教授、本間さと教授が哺乳類の時計遺伝子のひとつとして報告したDec2 (Nature 2002)と同一のもので本学と大変かわりの深い分子です。Bhlhe40は神経細胞では時計遺伝子として働きますが、iNKT細胞においては明暗刺激による発現変化は起こりません。

本研究では主にBhlhe40欠損マウスを用いて検討を行いました。iNKT細胞においてBhlhe40がT-betと結合して協働

し、IFN- γ 領域のヒストンH3-K9アセチル化を制御し、クロマチン構造を変化させることで、IFN- γ の産生を制御することを示しました。このメカニズムの解明は、将来的にはiNKT細胞を用いた有用な腫瘍細胞治療の開発や自己免疫疾患の病態解明に役立つ可能性があると考えています。

私事にはなりますが本論文を通じまして、医学博士の学位をいただくことができました。さらには、この度このような大変栄誉ある賞をいただくことができ、これらを励みとし今後も研究に精進してまいりたいと存じます。

2017年北海道大学医学部、北海道大学病院、北海道大学医学部同窓会合同新年会 および北海道大学医学部創立100周年記念事業後援会設立総会の開催について

腫瘍病理学分野 教授 ^{たなか しんや} 田中 伸哉 消化器外科学分野II 教授 ^{ひらの さとし} 平野 聡 消化器内科学分野 教授 ^{さかもと なおや} 坂本 直哉

北大医学部ではこれまで、年の初めの新年会として、木曜会・二水会合同の新年会が開催されてきましたが、今年からはこれを改めて北大医学部・北大病院・医学部同窓会の合同の新年会として開催されました。また特に今年の会は2年後にせまった医学部創立100周年記念事業後援会設立総会も兼ねて盛大に行うという趣旨で北大医学部同窓会会員、医学部教員、病院教員はじめ、大学、各医局の幅広い関係者の皆様にお集まりいただきました。

今回発起人より、幹事長を仰せつかりましたが、大所高所からのご指導をいただくために、医学部・病院・同窓会の役職の先生方、同窓会の評議員・予備評議員の先生方、また各医局からご推薦をいただいた先生方には参与のご就任をご依頼させていただきました。

初めての試みでしたので、どの程度の人数が集まるか不安な面もありましたが、前日までの登録160名と、大変盛大な会となりました。特に、大学ばか

りではなく、同窓会の各期の先生が幅広く顔を揃えられ、また、市中病院の先生も多く集まり、各期の輪、同門の輪、専門分野の話、部活の輪、など実に様々な輪ができて、とても賑やかな会となりました。「新年会に行けば、皆に会える」というような会になることを願っております。

会の進行表は、以下の通りです。スピーチをいただいた、梶井先生、小柳先生、成田先生には深謝いたします。また、準備については、総勢20名の幹事団の先生方にはアイデア、進行などお世話になりましたのでお名前を挙げて御礼申し上げます。

同窓生はじめ皆さんが来年も、「行ってみようかな」と思えるように今年どなたが参加されたかがわかるように参加者一覧を掲載しますのでご参照ください。会の和やか・賑やかな感じはスナップ写真からお感じいただければと思います。

(期 氏名)

30田邊 達三、平山 亮夫、31水戸 廻郎、33大浦 武彦、35齋藤 和雄、37阿部 弘、38菅野 盛夫、早坂 真一、39鈴木 重統、40小柳 知彦、長瀬 清、南 勝、42西 信三、山下 幸紀、43関谷 千尋、三上 一成、44北野 明宣、中村 仁志夫、46相川 忠弘、高橋 順一郎、47岸 玲子、桜井 正之、48浅香 正博、松野 一彦、49安達 一幸、50太田 俊郎、加藤 法喜、目黒 順一、渡辺 光明、51武蔵 学、52梶井 直文、櫻木 範明、高桑 雄一、福田 諭、三神 大世、53西村 正治、54有賀 正、小林 正伸、佐々木 秀直、吉田 純一、55佐久間 一郎、高橋 昌宏、寶金 清博、水谷 匡宏、56奥山 和彦、56笠原 正典、武田 宏司、西澤 典子、藤野 敬史、松居 喜郎、57秋田 弘俊、緒方 昭彦、小柳 泉、白土 博樹、57飛騨 一利、深澤 俊行、藤井 ひとみ、吉田 一人、58大場 淳一、長瀬 英介、橋野 聡、平林 高之、三田 昌輝、吉田 秀明、米澤 一也、59松野 吉宏、山本 真、60小倉 滋明、久住 一郎、60笹本 洋一、篠原 信雄、長谷川 直人、山本 有平、吉岡 充弘、61大原 正範、神山 俊哉、成田 吉明、古家 乾、63九津見 圭司、嶋村 剛、64渥美 達也、南須原 康行、平野 聡、三橋 智子、65奥山 淳、本間 明宏、渡利 英道、政氏 伸夫、66泉 剛、田中 伸哉、長 祐子、畠山 鎮次、尾島 裕和、67近藤 健、七戸 俊明、樋田 泰浩、古川 洋志、68小西 和哉、69石森 直樹、志賀 哲、外丸 詩野、70大西 俊介、神島 保、田中 真樹、71清水 伸一、田中 敏、西原 広史、山田 崇弘、72大場 雄介、74田代 淳、75石田 雄介、桂田 武彦、76加納 崇裕、77川久保 和道、78藤田 靖幸、山崎 美和子、80木佐 健悟、81村上 学、84梅本 浩平、渡部 昌、90中本 裕紀、92半田 悠、専4吉尾 弘、会員(2)有川 二郎、井上 芳郎、岩崎 倫政、大滝 純司、坂本 直哉、玉木 長良、玉腰 暁子、渡邊 雅彦、北大)岡村 圭祐、加賀 基知三、武富 紹信、加島 裕基、加藤 泰史、小松 嘉人、今野 哲、高橋 秀尚、谷野 美智枝、築山 忠維、津田 祥美、津田 真寿美、寺坂 俊介、中村 裕介、菱山 豊平、GOUDARZI HOUMAN、SHANE PETER YAMAMURA、王 磊、連携講座)近藤 啓史

<合同新年会>

発起人：笠原 正典(56期)、寶金 清博(55期)、浅香 正博(48期)
顧問：齋藤 和雄(35期)、長瀬 清(40期)、吉木 敬(42期)
幹事：田中 伸哉(幹事長・66期)、平野 聡(副幹事長・64期)、坂本 直哉(副幹事長・東京医科歯科大昭和62年)、久住 一郎(60期)、南須原 康行(64期)、長 祐子(66期)、渡利 英道(65期)、本間 明宏(65期)、矢部 一郎(67期)、樋田 泰浩(67期)、外丸 詩野(69期)、神島 保(70期)、西原 広史(71期)、田中 敏(71期)、大場 雄介(72期)、菊地 英毅(73期)、本間 重紀(札医大平成9年)、桂田 武彦(75期)、石田 雄介(75期)、木佐 健悟(80期)



同級生交歓：松居教授と笠原教授(56期)



都ぞ弥生の大合唱：世代間でテンポのはらつきがみられた。スキー部の大西先生(70期)の前口上。



阿部弘先生(37期)と田邊達三先生(30期)



三名誉教授：阿部先生、田邊先生、大浦武彦先生(33期)



吉岡充弘副研究科長：百年記念会館構想ご説明



渡利英道婦人科准教授(65期)による100年の歴史を振り返るスライド上映



司会の南須原康行先生と長祐子先生



浅香正博同窓会長が100周年 寄付目標10億円を語る



寶金清博病院長(55期)のご挨拶



長瀬清 北海道医師会長(40期)のご挨拶



複数の同期・臨床・病理の先生の輪
左から神島先生、谷野先生、外丸先生、
田中先生、石田先生



神経内科の同門の輪と北大病院国際医療部
左から、ピーター・シェーン先生、佐々木教授
緒方先生、田代先生、石森先生(循内)



都ぞ弥生の輪：(1枚目左から)水戸先生、西原先生、武富教授、近藤先生、木佐先生、
(2枚目左から)松居教授、田邊先生、平野教授、長先生、田中教授



内科Iの尾島先生、小倉先生、相川先生



西村教授(中央)を囲む谷野先生と西原先生



西澤先生と鈴木先生



院長仲間：左から渡辺先生、平林先生、
長瀬先生、吉田先生



スピーチ：成田吉明先生



スピーチ：梶井直文先生



左から松野先生、吉田先生、深澤先生、小柳先生



福田教授と玉木教授

北海道大学医学部創立100周年記念事業へのご協力をお願い

北海道大学医学部は、平成31(2019)年に創立100周年を迎えるにあたり、北海道大学医学部百年記念館の建設を柱とする創立100周年記念事業を計画しております。

同窓生の皆様を始めとする関係各位におかれましては本事業の主旨をご理解いただき、格別のご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

北海道大学医学部
創立100周年記念事業実行委員会
募金活動小委員会
委員長 吉岡 充弘

(問い合わせ先)
北海道大学医学系事務部総務課庶務担当
011-706-5003、5892
shomu@med.hokudai.ac.jp

展示資料に関する情報ご提供のお願い

医学部創立100周年記念事業実行委員会では、平成31年竣工予定の『医学部百年記念館』において展示する資料に係る情報収集を行います。

ご自宅や教室等において所有されております書籍や実験器具、写真、標本、その他北海道大学医学部及び医学の教育研究に関連する歴史的、学術的資料等のうち、北海道大学医学部にご寄贈・ご寄託*いただけるものがございましたら、下記内容についてご連絡いただきますようお願い申し上げます。

(お知らせいただきたい内容)

次の事項について、①メール本文、または②官製ハガキに記入のうえ、ご連絡願います。

- ・氏名
- ・連絡先(郵便番号、住所、電話番号)
- ・資料名とその概要(200字程度以内)

【締切】

平成29年6月30日(必着)

【宛先】

①メールによるご連絡の場合

shomu@med.hokudai.ac.jp

(北海道大学医学系事務部総務課庶務担当)

②郵便によるご連絡の場合

〒060-8638 札幌市北区北15条西7丁目
北海道大学医学系事務部総務課庶務担当

このたびの情報収集は「予備調査」として行うものです。ご提供いただいた情報に基づき、実行委員会においてスペース等をも考慮しつつ展示方法・

内容の検討を行いますので、広く情報をお寄せいただければ幸いです。お気軽にご連絡ください。

なお、後日、詳細について所定の様式等による一次調査をお願いすることもございますのでその際にはご協力方よろしくお願い申し上げます。

また、保管場所がございませんので、現段階での現物の送付はご遠慮いただきますようお願い申し上げます。

(個人情報の取扱いについて)

いただいた氏名、住所、電話番号等の個人情報につきましては、厳重かつ適正に管理し、『医学部百年記念館』における展示資料の収集に伴う今後の調査(一次調査、最終調査)及び連絡を行う

ためのみに使用させていただきます。

北海道大学医学部
創立100周年記念事業実行委員会
委員長 吉岡 充弘
展示物等小委員会委員長 畠山 鎮次

(問い合わせ先)

北海道大学医学系事務部総務課庶務担当
011-706-5003、5892
shomu@med.hokudai.ac.jp

*寄贈：所有権を無償で所有者から医学部に移譲すること
寄託：所有権を所有者に留めたまま、医学部において保管・展示等を行うこと

大学院組織再編のお知らせ（医学研究科から医学研究院/医学院へ）

北大医学部の各科はこれまで「神経薬理学分野」「脳神経外科学分野」など「分野」と呼ばれていたが、2017年4月から、正式名称が「教室」へと変わった。これは、大学院の制度として組織が再編されたためである。

この春より北大大学院の医学研究科は医学研究院へと名称が変わった。「科」と「院」と文字の上では一字違いだが、文科省の取り扱い、大学内での位置づけは大きく異なる。これまでの「研究科」は先生（大学院の教員）も生徒（大学院生）も等しく所属していたが、「研究院」は先生の所属先となる。では大学

院生はというと「学院」に所属する。大学院の学生の所属先として「医学院」「医理工学院」ができた。

医学部の教員は昔から、研究・教育・診療の3つの任務があるといわれているが、診療は北大病院で行うのでわかりやすい。研究・教育は切っても切れないもののはずだったが、今回は、「研究する自分」と「教育する自分」と体を2つに分けて考えなければならない。「研究する自分」は「医学研究院」に所属する。これがいわば本籍地だ。さらに「教育する自分」については担当の学院を1つ選ぶこととなる。多くはも

ちろん「医学院」を担当する。だが医理工学院を教える場合は「医学研究院」に本籍がある教員でも、「医理工学院」の学生を担当できる。しくみの上では、一定の条件下では医学部の先生でも「工学院」や「理学院」を担当することも可能となる。

表1 学部学生、大学院生、教員の所属の名称

北海道大学					
学部生	医学部	医学科			
大学院生(新)	大学院医学院	医学専攻		講座	教室
	大学院医理工学院	医理工学専攻		講座	教室
教員(新)	大学院医学研究院		系	分野	教室
	大学院医学研究科	医学専攻	系	講座	分野

例) 大学院生の所属:北海道大学大学院医学院医学専攻内科学部内科学講座血液内科学教室
教員の所属:北海道大学大学院医学研究院内科系内科学分野血液内科学教室

これにより、先生と生徒の間で交流が起こりいわゆる学部の壁がとれて、融合研究が発展する土壌ができることが期待される。なかなか理解するのがややこしいしくみだが、この制度とともに北大医学部が大きく発展することを祈念したい。

平成28年度フラテ研究奨励賞報告

選考委員会委員長
あき た ひろ とし
秋田 弘俊(57期)

平成28年度フラテ研究奨励賞には4件の応募があり、各委員が事前に応募者全員の研究業績を審査し、昨年12月28日に開催した選考委員会で、研究業績、研究計画の発展性等について多様な観

点から審査を行った結果、次の2名を受賞者として決定しました。

授賞式は本年2月13日に札幌パークホテルで行い、浅香正博同窓会長（48期）から表彰楯及び研究奨励金が贈呈され

ました。

本賞は、医学部同窓会の若手会員（応募の年度末で40歳未満）に対し、創造的研究の育成に資することを目的に創設されたものであります。平成15年度

の第1回から数えて第14回となる今回の受賞者を含めてこれまでに55名の方々を顕彰し、その多くが受賞後も期待どおりの研究業績を挙げています。

「受賞の喜び」

(順不同)

研究課題：滑動性眼球運動と前庭系の相互作用に関する研究



北大病院
耳鼻咽喉科 医員
藤原 圭志
(78期)

「フラテ研究奨励賞受賞によせて」

この度、平成28年度フラテ研究奨励賞を受賞させていただきました。このような名誉ある賞を受賞することができ、北大卒業生として非常に光栄に思います。

本研究は、私が大学院生として当時の認知行動学分野（現在の神経生理学分野）に在籍していた際に行ったものが中心となっています。ご指導いただきました福島菊郎名誉教授始め、教官の先生方、ポスドクや院生の先輩方に

心より感謝申し上げます。滑動性眼球運動は、ゆっくり動く小さな視覚対象物を視力の最もよい中心窩に保持し続けるための、霊長類のみに可能な眼球運動です。日常生活においては頭部も動いているため、対象物を追視し続けるためには頭部の運動を検出する前庭系と眼球運動系の信号は統合され、処理されているはずですが、脳内のどの領域でどのように統合されているかは明らかになっておりません。今回、ニホンサルを用いて、滑動性眼球運動に

必須の領域で、前庭からの入力も受けている前頭眼野後部領域およびMST野に着目し、視覚刺激と前庭刺激を加えた際の両領域のニューロン応答を記録し、解析しました。

最後に、大学院での研究の機会を与えていただきました、福田教授始め、耳鼻咽喉科医局員の皆様へも御礼申し上げます。今回の受賞を励みに、研究に臨床に引き続き精進して参りたいと思います。

研究課題：ウイルス感染に対する宿主自然免疫シグナル制御機構の解析



北大遺伝子病制御研究所
分子生体防御分野 助教
山田 大翔
(会員2)

この度は、この大変名誉ある賞を頂き誠に光栄であり、また受賞に際しまして選考委員の諸先生方、同窓会の先輩方、事務局の方など多くの方々に心より感謝申し上げます。私は、平成28年の3月に本学医学研究科博士課程を修了し、その後も引き続き遺伝子病制御研究所にて、自然免疫の基礎研究に従事しております。ウイルスの感染やがんに対する宿主の自然免疫応答は、生体の恒常性の維持に非常に重要であり

ます。一方でその破綻は、多くの炎症性疾患や自己免疫疾患の病態の原因にもなっており、自然免疫のシグナル伝達経路の解明はこれらの病態を理解する上でも、重要な課題であります。そのような背景の中、私達の研究グループでは、トリプトファンの代謝産物が宿主自然免疫応答を抑制することを見出し、さらにその詳細な機構を明らかとしました。今後は自然免疫シグナルの過剰な応答が引き起こす炎症性の疾

患や自己免疫性の病態に対する治療応用への展開を視野に入れて、この研究をさらに発展させていきたいと考えております。普段から、研究室に籠もり気味な私にとって、このような賞を頂いたことは、非常に励みになります。まだまだ若輩者の私ですが、本学医学部の発展の一助になればと考えておりますので、今後ともご助言、ご指導の程、どうぞよろしくお願い致します。

平成29年度 フラテ研究奨励賞受賞候補者の募集!!

《フラテ賞》

- ・平成29年度フラテ研究奨励賞受賞候補者を次のとおり募集します。
- ・本賞は、医学部同窓会若手会員の創造的研究の育成に資することを目的に創設され、平成15年度の第1回から数えて昨年度までに55名の方々が受賞しています。
- ・第15回目の募集となる今年度も、多くの会員が奮って応募されることを願っております。

《授賞件数等》

- ・授賞件数は5名以内、受賞者には表彰楯

及び研究奨励金20万円を贈呈します。

《応募資格、募集期間等》

- ・**応募資格** 平成29年度末（平成30年3月31日）現在、40歳未満である本会会員で、年会費を完納している次のいずれかに該当する者とします。
 - ①北大学医学部医学科を卒業した者
 - ②前号以外の北大医学研究科または北大医学院を修了した者（応募する年度末までに修了見込みの者を含む）で、応募する年度の末日現在2年以上の同窓会員歴を有する者
 - ③第1号以外の北大医学研究院の教員

で、応募する年度の末日現在2年以上の同窓会員歴を有する者

- ④第1号以外の北大病院の教員または医員で、応募する年度の末日現在2年以上の同窓会員歴を有する者
- ・募集期間 平成29年11月1日から11月30日までの1ヵ月間です。

※申請書提出時において会費未納の方がおられますので、ご注意ください。

《応募書類等》

- ・応募書類（申請書、推薦書、業績別刷）の提出部数は6部（コピー可）とします。応募書類は一切返却しません。

・応募書類を封筒に入れて、「フラテ研究奨励賞応募書類在中」と朱書きし、郵送または持参すること。

- ①郵送は必ず「簡易書留」としてください。11月30日までの消印のあるものは有効とします。
- ②郵送した場合は直ちに、応募者氏名、郵送日を電子メールにより同窓会事務局へ連絡してください。
- ③郵送（持参）先
〒060-8638 札幌市北区北15条西7丁目
北大医学部内
北海道大学医学部同窓会事務局

・申請書は同窓会ホームページからダウンロードしてください。北大医学部同窓会で検索して、左上部の Contents「フラテ研究奨励賞」から入ってください。

北大医学部同窓会

《選考結果の発表、授賞式等》

・受賞者が決定次第、北大医学部掲示板及び同窓会ホームページで発表するとともに、応募者全員に選考結果をお知らせします。

・授賞式は、平成30年2月に開催する同窓会総会で行う予定です。

・受賞者には、授賞式への出席及び同窓会新聞への寄稿をお願いしています。

・ご不明の点は、同窓会事務局にお問

い合せください。

電話 : 011-706-5007

E-mail : furate@med.hokudai.ac.jp

北海道大学・環境健康科学研究教育センターが世界保健機関研究協力センター (WHO Collaborating Centre) に指定されました (活動紹介)



環境健康科学研究教育センター特別招へい教授、WHOCC責任者

岸 玲子 (47期)

環境健康科学研究教育センターは北海道大学の学内共同教育研究施設ですが、2015年4月22日にWHO collaborating centre (環境化学物質による健康障害の予防のための研究協力センター) として指定されました。WHOCCは研究・活動を通じてWHOを支える施設で、世界では約700施設、国内では35施設が認証されています。化学物質に関しては本センターが日本で初めて認証されました。北大では人獣共通感染症リサーチセンターに次いで2つ目のセンターです。

PCBやダイオキシン類、農薬、有機フッ素化合物、プラスチック可塑剤などの環境化学物質による汚染が世界的に広がる中で、特に子どもや妊婦、労働者、高齢者などの曝露による影響を受けやすい人々の健康障害を予防する必要性

が高まっています。これら環境と健康に関する疫学研究を長年行ってきた実績から、今回、WHO研究協力機関に指定されました。

当センターがWHOとの間で交わした研究協力センターとしての役割 (TOR) は以下の3つです。

- ①環境化学物質の健康障害を予防するため、諸研究を通じて貢献する。特に世界的に危険な化学物質に関する調査研究のために特定の地域や国への研究者を派遣する。
- ②化学物質曝露と健康障害に関する研究成果や科学的知見について、WHOによるガイドライン作成や研修モジュール等の開発にむけたデータ収集と提供
- ③特に脆弱な人々の健康障害予防に関する知識向上のため国際的な研修コースなどの企画・開催

過去2年間の具体的な活動としましては、1つ目がWHO 西太平洋事務所 (WPRO) 地域での能力開発と知識向上への貢献で、トレーニングコース「The

First Regional training on Health Environment and Development」への講師派遣、本学で開催した国際環境疫学会アジア支部総会へのWHO担当官の招へい、WHOモンゴル事務所主催の国際会議での講演等です。2つめの活動は国際連携ネットワークの構築で、現在、WHOCC Children's Environmental Health (CEH) に参画し、世界10以上の関連するWHOCCやNGO組織との連携により子どもの健康のための環境改善活動を進めています。3つ目の活動はWHOへの科学的知見の提供であり、私は昨年、WPROの政策アドバイザーに就任し、またBirth Cohort Consortium of Asia (BiCCA) の代表になり、アジア地域の科学的知見の取りまとめなどを行っています。4つ目の活動は研修で、特にWHO本部が進めるCEHに関する研修パッケージの改訂に取り組んでいます。

WHOでは研究協力機関の全体会議 (フォーラム) をWPROで2度開催しています。第1回フォーラムは2014年、第2回は2016年にありました。これは国連

がミレニアム開発目標を出し数値目標を決め努力してきたものの先進国を含めて未だ課題が多いため、さらに今後15年間の持続的な開発目標 (Sustainable Developmental Goals) を決めたのに呼応しています。中でも気候変動への対策が遅れ、人々の健康や安全が脅かされているという認識で、国際社会共通の問題として環境と健康に関する国際的な戦略を打ち出しています。特に「Nobody left behind (地域や民族、弱者など、誰をも見捨てない)」を目標としています。私たちは化学物質による健康障害の予防のために、国内外の研究機関や研究者との連携強化を目指していますが、各センターがWHOと協力して、健康と安全やQOLの面でどう貢献できるかが鍵になります。医学医療に携わっている同窓の先生方も今後、種々の接点がありうるのではと思われま。ご支援やご協力を賜りますよう、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。



第1回WHOCC WPROフォーラム (フィリピン・マニラのWHO西太平洋事務局で参加者による人文字)



WHOCC 認証記念シンポジウム(北海道大学100年記念館)

‘Cutting edge of global health’ 世界保健機関のインターンの経験を通して



寺田 悠里子 (医学科5年)

飛行機から眼下にチューリッヒ空港が見えた時、これから始まる7週間のインターンシップへの不安と期待が入り混じって自分に押し寄せてきた。滞在先の民宿からWHOへはバスで15分程で、その途中には国連ジュネーブ本部、UNHCR、国際赤十字などが立ち並び、コスモポリタンの気風が感じられた。私が医学部5年生になる直前の2015年の2月末から4月頭まで所属していたのは

Non-Communicable disease (NCDs) 部署のNutrition Policy and Scientific Advice Unitであった。世界中の政府やNGO、保健機関などが参考にできる栄養改善の政策の有効性の評価や、指標のモニタリング (例えば女性のVitaminA不足の割合、5歳未満の栄養不足児の割合など)、栄養摂取量の基準の定義など多岐に渡る活動をしていた。私は様々な国の政策の中にかかれているデータを読み取り、インターネットのデータベースに入れる仕事が主で、合間に栄養の摂取基準を決める会議に出席したり、ほぼ毎日昼に他の部署で行われるセミナー (内容は多岐に渡った!) に参加した。6週間の間に読んだ栄養政策の文

書は50部を超え、さらに80か国以上のデータを抽出した。アフリカの初めて聞くような国がどんな栄養改善に対する取り組みをしているのか読むことは非常に面白かったし、厳密な (それこそ幾重にも重なる) 人の精査を通過して出版されるWHOの文書の作成過程を垣間見て恐れ戦くと共に、ここで決められたことが世界の基準になるということに感動した。(そしてその大変さを緊張性頭痛によって実感した) 私と同様に世界中からインターンが来ていた。2人以上集まれば、国際保健、ジェンダーや人権問題などの議論が活発になり、激励し合った。また、国際機関で働いている日本人に積極的に会いに行

き、様々な助言を得ることができた。当時北海道大学国際本部にいらした玉城先生にWHOで働いている方に繋げて頂き、何回もCVを書き直し、先生の力添えにて今回のインターンを実現できた甲斐もあり、将来はこの経験を通して世界中の子供達の栄養の改善を推進していく仕事につきたいという志を固くした。



理事会・評議員会報告

理事会

日時：平成29年4月24日(月)
午後6時30分から午後7時30分
場所：医学研究科 中会議室
出席者：理事10名、監事2名、
評議員会議長、副議長

評議員会

日時：平成29年4月24日(月)
午後7時30分から午後7時50分
場所：医学研究科
学会会館「フラテ」大研修室
出席者：評議員、予備評議員56名
(出席11名、委任状提出45名)、
理事10名、監事2名

【協議事項】

1. フラテ研究奨励賞要項の一部改正について

北大医学部医学科卒業生以外の同窓会員が応募する場合、応募時に2年以上の会員歴を有する者とするのが了承されました(平成29年4月24日から実施)。
2. フラテ研究奨励賞選考委員会委員の選出について
5名の選考委員が了承されました。なお、任期は平成29、30年度の2年間です。
3. 平成28年度会計収支決算(案)について
会計収支状況及び特別会計預金状況について了承されました。
4. 平成28年度会計監査について
会計監査結果について了承されました。
5. 平成29年度会計収支予算(案)について
会計収支予算案について了承され

ました。
6. 北海道大学校友会エルム代議員について
校友会エルム代議員に今理事が推薦されました。

【報告事項】

1. 次期評議員、予備評議員の一部交代について
平成28、29年度を任期とする各期ごとの評議員及び予備評議員の一部交代について報告されました。
2. 平成28年度庶務事業報告について
総会及び新入会員歓迎会の開催状況等について報告されました。
3. 平成28年度編集報告について
同窓会新聞及び同窓会員名簿の発行状況等について報告されました。
4. 医学部創立100周年記念事業について

医学部創立100周年記念事業の進捗状況について報告されました。
5. その他
医学部創立100周年記念事業で故人会員の家族へ寄附をお願いする際、故人の名前が保存されることが明記された文書を作成していただきたいとの意見があり、委員会で検討することとなった。

告知板

<教授就任挨拶>

札幌医科大学医学部皮膚科学講座
教授



うはら ひろのり
宇原 久(62期)

平成29年2月に就任いたしました。北大を卒業後すぐに郷里に戻り、この四半世紀は信州大学で勤務しておりました。北海道は30年ぶりとなりますが、第2の故郷であるこの地で勤務できることは望外の喜びであります。私は、これまで四半世紀の間、皮膚がんの診療と研究を中心に研鑽を積んできました。そして、この数年間は抗PD-1抗体薬、抗CTLA-4抗体薬、BRAF阻害薬、腫瘍溶解ウイルスなどの開発に関わっています。与えられた任を全うするため、さらに精進してまいりたいと思います。ご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

東京女子医科大学東医療センター
泌尿器科 教授



こんどう たかのり
近藤 恒徳(66期)

2017年1月より東京女子医科大学東医療センター泌尿器科教授として着任致しました。これまで腎癌を中心に小径腎腫瘍に対するロボット支援腹腔鏡下腎部分切除から、下大静脈進展などの高度進行症例に対する手術治療、また転移症例に対する薬物治療まで広い範囲で数多くの症例を経験し、その症例から臨床研究として治療効果をあげる工夫をしてまいりました。北海道大学泌尿器科とコラボレーションした研究も行っております。これからも臨床研究さらに継続し、さらに新しい知見を発表できるよう精一杯努力する所存です。これからもよろしくおねがい申し上げます。

東京医療学院大学 保健医療学部
教授



うへだ りょう
上田 諭(72期)
「発展途上の大学で
開拓精神を」

文系大学を出て新聞記者をしていた。北海道大学で夢の医学生になったのは33歳だった。不惑の年目前で医師をスタート。都立病院で高齢者のうつ病や認知症に対する不適切な医療を目の当たりにして、その道を専門にしようと思った。
電気けいれん療法を学ぶ「研修留学」ののち、49歳から日本医科大学精神神経科で臨床に専念。学位も得たが、論文が足りず講師どまり。10年目、臨床フットワークに限界を感じ、東京医療学院大学(リハビリ科、看護学科)の精神医学担当教授に就くことになった。発展途上の小さな大学だが、北大フロンティア精神をもって務めたい。

北海道文教大学人間科学部
教授



たみやま あきひろ
瀧山 晃弘(77期)

この度、北海道文教大学人間科学部理学療法学科教授、並びに北海道文教大学大学院リハビリテーション科学研究科リハビリテーション科学専攻教授(併任)に就任することになりました。数えきれない程多くの方々にお世話になりましたが、腫瘍病理学分野の田中伸哉教授をはじめ、腫瘍病理学分野の教室員の皆様には一方ならぬご尽力を賜り心より感謝申し上げます。浅学菲才の若輩者ではございますが、全力を尽くして更なる研究・教育に精進いたす所存でございます。皆様には今後とも一層のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

<学内・院内人事異動>

<辞職>

平成29年3月14日 坂下 智博(78期) 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学分野助教(市立釧路総合病院)
平成29年3月31日 佐藤 松治(58期) 広報室助手(未定)
藤本 勝也(71期) 血液内科助教(北海道がんセンター)
土屋 和彦(72期) 放射線治療科講師(小樽市立病院)
畠山 博充(72期) 耳鼻咽喉科助教(横浜市立大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科准教授)
作原 祐介(73期) 放射線診断科助教(斗南病院)
石津 桂(74期) 小児科助教(北門山 杜のこどもクリニック 8月開院予定)
宮島 直人(75期) 泌尿器科助教(手稲溪仁会病院)
若狭 哲(75期) 循環器・呼吸器外科学分野講師(KKR札幌医療センター)
秋元 琢真(79期) 周産母子センター助教(函館中央病院)
成田 尚(82期) 精神科神経科助教(市立稚内病院)

<任期満了>

平成29年3月31日 櫻木 範明(52期) 生殖内分泌・腫瘍学分野教授(小樽市立病院特任理事)
福田 諭(52期) 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学分野教授(社会医療法人カレスサッポロ理事)
荒木 直人(67期) 産科助教(公立芽室病院)
神津 将仁(71期) 手術部助教(未定)
西原 広史(71期) 探索病理学講座(寄附講座) 特任教授(北海道がんセンター)
大島淳二郎(75期) 小児科特任助教(まつもと小児科)
木村 太一(77期) 臨床研究開発センター特任助教(北海道医療センター)

畑中佳奈子(77期) コンパニオン診断寄附研究部門特任講師(コンパニオン寄附研究部門招へい教員)
田中 公貴(79期) 消化器外科Ⅱ特任助教(未定)
玉木 長良(会員2) 核医学分野教授(京都府立医科大学特任教授)
水上 尚典(会員2) 産科・生殖医学分野教授(未定)

<割愛>

平成29年4月1日 泉 剛(66期) 神経薬理学分野准教授(北海道医療大学薬学部教授)

<採用>

平成29年4月1日 瀬谷 司(52期) ワクチン免疫学分野(産業創出分野)特任教授
辻野 一三(66期) 呼吸器内科学教室特任研究教授
久保田 卓(70期) 循環器・呼吸器外科助教
角家 健(71期) 先端的運動器機能解析・制御学分野(寄附分野)特任助教
栗田 紹子(76期) 精神科神経科助教
三田村 卓(77期) 婦人科助教
大澤 崇宏(78期) 泌尿器科助教
藤原 圭志(78期) 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学教室助教
水内 一臣(78期) 眼科特任助教
若山 顕治(78期) 消化器外科学教室Ⅰ特任研究助教
新垣 雅人(79期) 臨床研究開発センター特任助教
川堀 真人(79期) 脳神経外科特任助教
古瀬 優太(79期) 周産母子センター助教
溝口 兼司(79期) 耳鼻咽喉科助教
三井 信幸(79期) 精神医学教室助教
柳 輝希(79期) 皮膚科学教室特任研究助教
山口 秀(79期) 脳神経外科助教
曾山 武士(80期) 放射線部助教
真鍋 治(80期) 核医学診療科特任助教

杉山未奈子(81期) 小児科特任助教
 馬詰 武(83期) 産科助教
 干野 晃嗣(83期) 麻酔科助教
 門間 太輔(83期) スポーツ医学診療センター助教
 小林 鉄郎(84期) 衛生学教室特任助教
 高島 謙(90期) 免疫学教室特任助教
 杉野 弘和(91期) 腫瘍病理学教室助教
 神田 敦宏(会員2) 眼科学教室特任研究講師

阿保 大介(75期) 放射線診断科講師(同科助教)
 守屋 仁彦(67期) 腎泌尿器外科学教室准教授(泌尿器科講師)
 高畑 雅彦(73期) 整形外科学教室准教授(整形外科学分野講師)
 高橋 大介(76期) 整形外科講師(同科助教)
 新宮 康栄(77期) 循環器・呼吸器外科学教室講師(循環器・呼吸器外科助教)

平成29年4月1日

<所属換>
 平成29年4月1日 加畑 馨(72期) 臨床研究開発センター助教 (検査・輸血部助教)
 斉藤 仁志(80期) 先進急性期医療センター助教(麻酔科助教)
 曹 圭 龍(80期) 臨床研究開発センター特任助教(内科Ⅱ特任助教)

<昇任>
 平成29年3月31日 早川 峰司(73期) 救急医学教室講師(先進急性期医療センター助教)

<神奈川フラテ会の報告とお知らせ>

仁保 武宮43 市川62 国兼58
 田中 力石60 折館64 古屋67
 前田69
川上正也先生 (29) の米寿お祝い
 10月5日帝国ホテルで300名が参加して行われ、フラテから岩瀬和也先生(58)ご夫妻と私が出席した。川上先生の奥様がお話下さった次の裏話は先生のご幸運とこの会の雰囲気を表していたので紹介したい。

先生は米国出張の時100万円を入れたカバンを山手線の網棚に置いたまま降りてしまったが再度乗った電車は一回りしてきた電車だったので網棚のカバンを無事手にすることができた。
 終始和やかな会だったが、多数の参加者は先生のお人柄とこのようなご幸運に惹かれて参加したのだろう。

神奈川フラテ会開催のお知らせ
 例年と同じように講演会と総会、懇親会を開催します。なお学生の参加者が毎回増えていて昨年は7名の参加があったので新たに学生の希望や悩みを聴く群を設けました。神奈川の新進気鋭の諸先輩の助言は学生にとって大変役立つものと思います。
 会員と学生の多数の参加を幹事一同お待ちしております。

期日：7月29日(土) 17:30～
 会場：崎陽軒本店
 会費：1万円 (学生無料、旅費支給)
 「講演1」生活習慣病と免疫の接点
 講師 北里大教授 岩瀬和也先生
 「講演2」日常診療で気づいてほしい新規遺伝病
 講師 横浜市大准教授 古屋充子先生
 「学生の希望と悩みを聴く会」
 司会 島秀栄84 笠井悠太郎5年

事務局からお知らせ

同窓会費について

○会費納入のお願い

会員の皆様には、会費納入にご協力いただきありがとうございます。
 同窓会の事業は会員の皆様の会費によって運営されています。今後も意義ある同窓会活動を継続していくために、会費納入にご理解とご協力をお願い申し上げます。

○会費納入は次のいずれかの方法によります

①口座振替、②コンビニ納入、③銀行振込
 ※詳しくは同窓会新聞に同封される払込票をご覧ください。

○会費未納者と刊行物の送付

・未納会費が2年を超える会員には、会

員名簿(同窓会誌)をお送りしません。
 ・納入が9月30日を過ぎると、入金確認及び印刷部数確定の都合によりお送りすることができません。

○会費免除者と刊行物の送付

・会則により、卒業後55年を経過した会員の会費は、翌年度から免除とな

ります。
 ・37期生は平成29年度から、38期生は平成30年度の会費から免除となりますが、免除前に2年を超える未納会費があると、会員名簿(同窓会誌)をお送りしません。

ドクター総合補償制度のご案内

同窓会では「ドクター総合補償制度」を創設し、現在、500名近い会員が加入して、ご好評をいただいています。

本制度には「医師賠償責任保険(勤務医向け)」、「医療・がん保険」、「所得補償保険」があり、団体割引が適用さ

れるので割安な保険料で加入することができます。
年度途中でも加入出来ますので、同

窓会事務局にお問い合わせください。
 電話 : 011-706-5007
 E-mail : furate@med.hokudai.ac.jp

ご寄付の報告とお願い

同窓会では、企業、団体、個人の皆様に、同窓会事業支援のためのご寄付をお願いしております。
 寄付者のご了承を得て同窓会新聞にご紹介し、10万円以上のご寄付には、楯または額による感謝状を贈呈させて

いただきます。
 ご寄付につきましては、同窓会事務局にご連絡ください。
 電話 : 011-706-5007
 E-mail : furate@med.hokudai.ac.jp

会員名簿の処分にお困りの方へ

会員名簿には個人情報掲載されていますので、ご不要になった名簿は適切な処分をお願いいたします。ご自身で処分が困難な方は、郵便又は宅配便により同窓会事務局へ送ってください。
なお、恐縮ですが送料は各自でご負担

願います。
 ○送付先
 〒060-8638 札幌市北区北15条西7丁目
 北大医学部内
 北海道大学医学部同窓会事務局

新刊書紹介



「胃がんはピロリ菌除菌でなくせる」

浅香 正博(48期)他著
 潮新書
 ¥850

消化性潰瘍などの一部の疾患でのみ行われていたヘリコバクターピロリ(ピロリ菌)除菌が2013年にピロリ菌感染胃炎に対して保険適用となり、現在日常診療で広く行われています。ピロリ

菌感染者はほぼ例外なく胃炎を起こすので、感染者全例に除菌が可能になったということになります。本書はこの保険適用に深く関わった同窓会会長の浅香正博先生と医師であり参議院議員の秋野公造氏の共著によるピロリ除菌の意義と保険適用への道のりを示した単行本(2013年刊行)に保険適用後の動向を追加し、新書化したものです。本書はお二人の対談形式で行われており、ピロリ菌とは何かから胃がんとピ

ロリの関係を丁寧に説明しています。そしてどのようにして保険適用に至ったかの展開が詳細に描かれています。この一連の流れは医療が政治を動かし、ついには患者に大きな恩恵を与えると、日本の国民皆保険制度の中で行われた比類なき成果ということが出来ます。最終章ではその後の成果と今後の展望について述べられています。その中では保険適用後に胃がん死亡が減少傾向であり、2030年には死亡者数が半

減すると予測しています。ピロリ菌除菌の保険適用は、言い換えれば胃がん撲滅計画が開始されたということですが、その壮大なる計画が順調に進んでいることを示しています。日本の国民病でもある胃がんで死なないための方策として国民に向けてのメッセージが伝わってくる内容であり、ぜひ一読をお勧めいたします。
 (69期 前田 慎)



「私の医歴書」

浅香 正博(48期)著

本書は、現北海道医療大学学長、北海道大学消化器内科名誉教授の浅香先生が、エムスリー m3.comに30回にわたり連載されたものを本にまとめたものだ。m3は20万人を超える医師が登録し

ている我が国最大の医療情報サイトで、研修医をはじめ若手医師を中心に多くの医師に読まれている。「私の医歴書」はその企画で、日本の医療に最も影響を与えた医師の「医歴」を特集することで若い先生の参考にしてほしいということで始まったものだ。第1回の高久文磨先生にはじまり、浅香先生は第8回目の登場である。
 1980年代の後半、留学帰りの若き浅香医師は胃炎の患者にピロリ菌の感染

が多いという情報を得る。北大で検証しようとした矢先、当時の権威からはけんもほろろ、見当違いも甚だしいと全く相手にされなかった。それでも頑張る浅香医師、助け舟をだしたのは、当時の井上和秋病理部副部長(35期)、7000枚の標本をみてピロリ菌をみつけた。当時だれも見向きもなかった菌に着目することで、現在の医療を変えることとなる。そのダイナミクスの渦中にいた、いや、そのダイナミズムを

創り出したのが浅香医師だ。1月1日生まれ、ご尊父は美幌町長。浅香青年の旅ははじまった。くじ引きで決まった医局での専門、平井秀松教授の熱血生化学指導など、若手もベテランも、基礎も臨床も区別なく是非ともお勧めしたい痛快サクセスストーリー。
 (66期 田中伸哉)



「がんが助かる人、助からない人」
専門医がどうしても
伝えなかつた「分かれ目」

近藤 慎太郎(74期)著
旬報社 ¥1,404

巷には奇をてらった内容や耳障りのいいことを書いてある書籍が本屋さんの医療書コーナーに並ぶなか、この本は、著者の専門であるピロリ菌と胃がん、大腸がんを中心に、それらの予防や検診の問題点について、科学的根拠やデータに基づき記されています。専門医からすれば常識の範疇の内容なの

かもしれませんが、特筆すべきは、分かりやすく適切な例え、そして著者自身が描いているという漫画・イラストが秀逸な点です。ちょうど検診適齢期(アラフォー)の自分自身としても検診と予防の必要性を痛感すると共に、患者に説明する立場としても非常に参考になります。文面と漫画(医者は自身がモデ

ル?)から察するに、この著者は実直で温厚な人柄なのかもしれません。もし自分ががんやその疑いになったら、このような先生に相談したいと思う、そんな1冊です。

(74期 近祐次郎)

職員交代の
ご挨拶



この4月から佐竹順一氏の後任として、医学部同窓会・北海道医学会の事務局に勤務している細野正廣と申します。

私は、昭和45年6月に北海道大学に採用され、小樽商科大学への転出した以外40年間に亘り北海道大学に勤めてきました。この間最初の10年は北大病院、その後、主に会計・予算関係の事務に従事し、24年3月理学・

生命科学事務部で定年を迎えました。さらに、5年間放送大学北海道学習センターで勤務してまいりました。

私は、北海道大学企画室で佐竹さんの後任として仕事を経験しました。医学部同窓会・北海道医学会で二度目の引継ぎになりますが、仕事の内容や手順については全く勝手が分からず、一つひとつアドバイスを受けながら仕事をしている状態です。

今までの大学事務の経験が、同窓会と医学会の仕事に役に立つか不安がありますが、精一杯職務に取り組む所存でございますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

北海道医学会からお知らせ

○北海道医学会ホームページURL

北海道医学会のホームページを開設しました。下記URLよりご覧ください。

<http://www.med.hokudai.ac.jp/hms/>

○北海道医学会について

北海道医学会は北海道における医学の進展を図るため、大正12年に発足した学術団体です。北海道大学、札幌医科大学、旭川医科大学の医師、医学研究者及び本会の目的に賛同される方々には一般会員として、道内の主要医療機関には特別会員としてご参加いただいております。

○主な活動内容

- ・機関誌「北海道医学雑誌」の発行(5月、11月：平成29年は第92巻)
- ・学術集会「市民公開シンポジウム」の開催(10月下旬：昭和41年から

実施)

・若手研究者への「研究奨励賞」の授与(年3名以内に賞状及び副賞：昭和58年から実施)

○入会のご案内

本会に入会されていない同窓会員におかれましては、是非ご入会いただきますようご案内申し上げます。医療機関としてのご入会も歓迎します。

なお、会員には機関誌「北海道医学雑誌」を発行の都度お届けいたします。

入会方法、申込書は、本会ホームページ(コンテンツ：入会ご案内)より入手してください。

○お問い合わせ先

北海道医学会事務局

電話：011-706-5007

E-mail: digakkai@med.hokudai.ac.jp

同窓会費の
納入は
口座振替で

同窓会費の納入方法は、①口座振替、②コンビニ納入、③銀行振込のいずれかです。

とくに口座振替は、店頭へ出向く手間が省けます。また、納入忘れがないのでとても便利です。

口座振替を希望する方は、同窓会事務局にお申し付けください。
電話：011-706-5007 E-mail: furate@med.hokudai.ac.jp

同窓会費納入の
お願い

同窓会事業は会員の皆様から納入された会費によって運営されています。会費納入にご理解とご協力を切にお願い申し上げます。

平成29年度同窓会誌「写真・絵画等」「文芸」原稿募集について

今年度は、同窓会誌発刊の年に当たっており、11月下旬発送予定で編集作業を進めております。原稿等掲載をご希望の方は、次の要領でご投稿くださいますよう、よろしくお願いいたします。

1. 募集原稿について

(1)短歌、俳句、川柳、詩など

(2)写真、絵画、版画、書、漫画など(カラー掲載可)

(3)論説、随筆、紀行文など(3200字以内、横書き)

本文に写真等が添付されている場合、写真等は基本的に白黒印刷となります。カラー掲載ご希望の場合は、本文は「文芸」の白黒ページ、**写真等は「写真・絵画等」のカラー**

用ページに分けて掲載することができます。ご希望の方は「**カラー掲載希望**」と書いてお送りください。

2. 原稿締切日について

平成29年8月1日(火)必着でお送りください。

3. 原稿、写真等は可能でしたらメールでお送りください。編集作業をスムーズに進めるため、ご協力く

くださいますよう、よろしくお願いいたします。

<原稿送付先>

〒060-8638

札幌市北区北15条西7丁目

北海道大学医学部同窓会事務局

TEL&FAX:(011)706-5007

E-mail: furate@med.hokudai.ac.jp

ご逝去者

新聞156号発行以降、ご連絡いただいた方を掲載しております。

御逝去年月日	氏名	期	御逝去年月日	氏名	期
平成27年12月	塚原 亜希子	72	1月21日	高 嶋 博 光	専旧7
平成28年			1月22日	岩 田 豊 三	35
			1月30日	橋 本 秀 夫	専2
8月15日	佐野 武 司	36	1月31日	古 畑 均 四 郎	34
11月1日	齋藤 政 樹	会員2	2月6日	片 岡 是 充	29
11月28日	西 博 博	専新6	2月19日	金 子 昭 夫	28
12月14日	鷺 沢 篤 郎	専3	3月2日	櫻 田 教 夫	専新7
12月27日	久保田 稔	23	3月18日	小 林 力	39
12月28日	佐々木 雄 一	38	3月23日	岩 崎 喜 信	47
平成29年	渡 辺 寛 一	23	3月27日	武 内 義 哲	36
1月2日	渡 辺 文	31	4月1日	武 井 忠 夫	28
1月10日	太 田 英 二	専旧7	4月3日	吉 野 克 己	専2
1月11日	中 山 嵩 毅	28	4月19日	今 村 昌 耕	19
1月17日	坂 本	34	5月17日	奥 原 英 二	28

一面の写真説明

「八重桜のトンネル」

石黒 信久(60期)

編集後記

弥生の首都にて、部活で同じ釜の飯を食った同窓生と再会しました。思い出話に花が咲き、宴の時間は瞬く間に過ぎ、気が付けば終電を代償に満開の夜桜を独占していました。参加者は互いに、第一線で活躍するが故の難しさ・厳しさを感じつつも、北大医学部同窓生としての連帯感から「前に進む力」を得ていること

医学部正面から南に伸びる小道の八重桜がちょうど満開でしたので、写真に撮りました。毎年、この桜をみるのを楽しみにしています。(2011年5月撮影)

を再認識することができました。

今号は通例の年度替わりの内容に、医学部創立100周年記念のflavorを盛り込んだ編集になっています。ご執筆いただいた同窓生の皆さまの渾身の記事が呼び水となり、縦横の同窓生間交流への気運の高まりに繋がることを切に願っております。

(70期 神島 保)

同窓会新聞は142号からHP上でご覧いただけます。アドレスは次の通りです。

<http://www.med.hokudai.ac.jp/alum-w/news/index.htm>

印刷所 **大日本印刷(株)**

〒065-0007 札幌市東区北7条東11丁目1番1号
代表(011)750-2205